

もく じ  
目 次

I 開会のあいさつ

くどう けいち ほんかいどう やかんちゅうがく かいきょうどうだいひょう	1
--------------------------------------	---

せいかつたいけんはつびょう

II 生活体験発表

えんゆうじゅく み おおの せつこ さつぼろえんゆうじゅく	1	テレビで遠友塾のニュースを見て 大野 節子さん(札幌遠友塾 じゅくりクラス)	4
わたし たいけん のぐち みのる ほこだてえんゆうじゅく ねん	2	私の体験 野口 実さん(函館遠友塾 2年)	8
おやじ かんしゃ いしかわ おさむ くしろ	3	親父に感謝 石川 修さん(釧路「くるかい」)	11
たの はこだてえんゆうじゅく のぐち のりこ ほこだてえんゆうじゅく ねん	4	楽しきかな函館遠友塾 野口 徳子さん(函館遠友塾 2年)	14
れきし ねん べっしょ み え こ さつぼろえんゆうじゅく ねん	5	歴史ある二十年 別所 美恵子さん(札幌遠友塾 3年)	19

はつげんこうりゅう かいじょうさんかしゃ かんそう しつもん  
III 発言交流(会場参加者による感想、質問)

22

へいかい

IV 閉会のあいさつ

いまにし たかと ほんかいどう やかんちゅうがく かいふくだいひょう	1	今西 隆人さん(北海道に夜間中学をつくる会副代表)	33
かん ひろこ ほんかいどう やかんちゅうがく かいふくだいひょう	2	菅 裕子さん(北海道に夜間中学をつくる会副代表)	35

---

かいさい ねん がつ にち ど ごご じ ふん  
開催： 2010年7月31日(土)午後1時30分から

ばしよ ほっかいどうどうみんかつどう だいかいぎしつ  
場所： かでの2・7(北海道道民活動センター)大会議室

---

# I 開会のあいさつ

工藤 慶一さん（北海道に夜間中学をつくる会共同代表）



みなさんこんにちは、第2回の全道の夜間中学に学  
ぶ人たちの交流会、今日2回目ということで始めたい  
と思います。現在学んでおられる方、過去学んで卒業  
された方、それから夜間中学を応援して下さる方に

一言ごあいさつをしたいと思います。

なぜ私たちは自らの体験も含めて、こういう経験を交流し、記録に残し、そして世の  
中に向かって、発信していかなければならないのでしょうか。札幌遠友塾が20年前に授業  
を始めたときは、夜間中学という言葉さえ誰も知らない時代でした。教育委員会の人も知  
らない、学校の先生も知らない、知らない、知らないばかりでした。それを何とか知っ  
ていただかないと困ることが沢山でてきたんです。

たとえば 1990年の20年前に遠友塾が授業を始める前に、月の受講料1,500円とい  
うことが新聞記事に載りました。そうすると、市民会館としては、「受講料を徴収して  
事業をしているから教室の使用料を3倍に上げます」といってきました。「規定によりそ  
うします」といって来たんです。その時にどうしたか、使用料が3倍になると、遠友塾は  
今とは違ってまだまだ会計の基盤が弱かった時代ですから、2年で遠友塾の金庫は「から」  
になるという計算はできました。それで市民会館の方をお願いに行ったのです。そのとき  
は押ししても引いても駄目でした。それで困り果てて、当時1年生が使っていた、今紺先生の

つく すうがく じゆぎょう み 作った数学の授業のプリントをお見せしたんです。そしたらその瞬間からあきらかに、  
たんとうしゃ ひょうじょう か 担当者の表情が変わりました。そうしてですね「いや、3倍にしなくて、今までどうり  
でいいよ」という言葉をいただいたんです。ここなんです。私たちの使っているプリント  
かいじょう か ぎょうせい ひと うご 会場を貸している行政の人も動かしてしまった、ということです。しかもその後、市民  
かいかん ぼしょ と ちゆうせんかい で 「くじ」を引いてということでしたけど、「そ  
まえ い き 前に入れさせてあげるから来なさい」とか、それから「ロッカーに空気が出たから、す  
ぎ ひじょう よ めんどう ぐ来なさい」とか、非常に良く面倒をみてくれました。

さらに、「市民会館が無くなる、どうしたらいい」といった時に、数多くの受講生のみな  
さんたちが一生懸命手紙を書いて、教育委員会、市長さん宛に手紙を出しました。後か  
ら聞きますと、これが相当大きな力になったようです。そして自ら、自分の体験を語っ  
て世の中の人に知ってもらいたいという人が現れるようになりました。学んでいる人の中  
で、自分と同じような人がまだまだ沢山いると思うので、このような、学校を知ってもら  
いたいという思いから、テレビに出たり新聞に出たり、という方があらわれるようになり  
ました。そうすると夜間中学があるということがだんだん人に知られていくようになりま  
した。これが私たちと行政の話し合いをするときに一番大きな力になってきているわけ  
です。

じつ こうりょうちゅうがっこう つか 実は向陵中学校を使えるようになったというのも、こういう力がなければ到底できる  
ことではありません。かんが くだ ぜんれい つか たいいくかん 考えて下さい、前例がないんです。グラウンドを使うとか、体育館  
つか がっこう きょうしつ じゆぎょう つか 使うというのはありますよ。学校の教室を授業で使うということは、今まで一度もな  
いことだったのです。ないことをあるようにしたという力は、やはり皆さんたちの学びた

いという<sup>おも</sup>思い、今<sup>いま</sup>までの<sup>たいけん</sup>体験、しかもそれが行政<sup>ぎょうせい</sup>の人々<sup>ひとびと</sup>の一人一人<sup>ひとりひとり</sup>の心<sup>こころ</sup>を動か<sup>うご</sup>かして、この  
ようなこと<sup>わたし</sup>になった<sup>ほっかいどう</sup>わけです。私<sup>わたし</sup>たちは、さら<sup>かくち</sup>に北海道<sup>ほっかいどう</sup>の各地<sup>じしゅ</sup>に自主<sup>やかんちゅうがく</sup>夜間<sup>たくさん</sup>中<sup>たくさん</sup>学<sup>たくさん</sup>を沢山<sup>たくさん</sup>つ  
く<sup>こう</sup>って、セン<sup>きのう</sup>ター<sup>はた</sup>校<sup>さつぼろし</sup>の機<sup>こうりつ</sup>能<sup>やかんちゅうがっこう</sup>を果<sup>こう</sup>た<sup>き</sup>す<sup>はた</sup>札幌<sup>さつぼろし</sup>市<sup>さつぼろし</sup>に公<sup>こうりつ</sup>立<sup>こうりつ</sup>の夜<sup>やかんちゅうがっこう</sup>間<sup>やかんちゅうがっこう</sup>中<sup>やかんちゅうがっこう</sup>学<sup>やかんちゅうがっこう</sup>校<sup>やかんちゅうがっこう</sup>をつ<sup>こう</sup>く<sup>こう</sup>って<sup>こう</sup>ほ<sup>こう</sup>しい、とい<sup>こう</sup>う  
ゆ<sup>ゆめ</sup>め<sup>ゆめ</sup>も<sup>ゆめ</sup>つ<sup>ゆめ</sup>て<sup>ゆめ</sup>い<sup>ゆめ</sup>ま<sup>ゆめ</sup>す。その<sup>わたし</sup>た<sup>たいけん</sup>め<sup>はつびょう</sup>に<sup>おお</sup>は<sup>ひと</sup>ま<sup>し</sup>だ<sup>し</sup>ま<sup>し</sup>だ<sup>し</sup>私<sup>わたし</sup>た<sup>たいけん</sup>ち<sup>はつびょう</sup>の<sup>おお</sup>体<sup>ひと</sup>験<sup>し</sup>の<sup>し</sup>発<sup>し</sup>表<sup>し</sup>を<sup>し</sup>多<sup>し</sup>く<sup>し</sup>の<sup>し</sup>人<sup>し</sup>に<sup>し</sup>、知<sup>し</sup>つ<sup>し</sup>て<sup>し</sup>い<sup>し</sup>  
た<sup>ひつよう</sup>だ<sup>おも</sup>く<sup>おも</sup>必<sup>ぼ</sup>要<sup>ふだん</sup>が<sup>ふだん</sup>あ<sup>ふだん</sup>る<sup>ふだん</sup>と<sup>ふだん</sup>思<sup>ふだん</sup>い<sup>ふだん</sup>ま<sup>ふだん</sup>す<sup>ふだん</sup>し、この<sup>せいか</sup>場<sup>だ</sup>が<sup>だ</sup>普<sup>だ</sup>段<sup>だ</sup>学<sup>だ</sup>ん<sup>だ</sup>で<sup>だ</sup>い<sup>だ</sup>る<sup>だ</sup>成<sup>だ</sup>果<sup>だ</sup>を<sup>だ</sup>出<sup>だ</sup>す<sup>だ</sup>機<sup>だ</sup>会<sup>だ</sup>に<sup>だ</sup>な<sup>だ</sup>る<sup>だ</sup>か<sup>だ</sup>も<sup>だ</sup>し<sup>だ</sup>れ<sup>だ</sup>  
ま<sup>う</sup>せ<sup>はじ</sup>ん。お<sup>おおぜい</sup>そ<sup>ま</sup>ろ<sup>ま</sup>く<sup>ま</sup>生<sup>ま</sup>ま<sup>ま</sup>れ<sup>ま</sup>て<sup>ま</sup>初<sup>ま</sup>め<sup>ま</sup>て<sup>ま</sup>大<sup>ま</sup>勢<sup>ま</sup>の<sup>ま</sup>前<sup>ま</sup>で<sup>ま</sup>話<sup>ま</sup>す<sup>ま</sup>とい<sup>ま</sup>う<sup>ま</sup>方<sup>ま</sup>も<sup>ま</sup>お<sup>ま</sup>ら<sup>ま</sup>れ<sup>ま</sup>る<sup>ま</sup>と<sup>ま</sup>思<sup>ま</sup>い<sup>ま</sup>ま<sup>ま</sup>す<sup>ま</sup>が、この  
お<sup>はなし</sup>話<sup>わたし</sup>を<sup>ひじょう</sup>私<sup>わたし</sup>は<sup>たの</sup>非<sup>たの</sup>常<sup>たの</sup>に<sup>たの</sup>楽<sup>たの</sup>し<sup>たの</sup>み<sup>たの</sup>に<sup>たの</sup>し<sup>たの</sup>て<sup>たの</sup>お<sup>たの</sup>り<sup>たの</sup>ま<sup>たの</sup>す<sup>たの</sup>し、あ<sup>やかんちゅうがく</sup>す<sup>かつどう</sup>か<sup>かて</sup>ら<sup>かて</sup>の<sup>かて</sup>夜<sup>かて</sup>間<sup>かて</sup>中<sup>かて</sup>学<sup>かて</sup>の<sup>かて</sup>活<sup>かて</sup>動<sup>かて</sup>の<sup>かて</sup>糧<sup>かて</sup>に<sup>かて</sup>し<sup>かて</sup>た<sup>かて</sup>い<sup>かて</sup>と  
おも<sup>おも</sup>つ<sup>おも</sup>て<sup>おも</sup>い<sup>おも</sup>ま<sup>おも</sup>す。非<sup>ひじょう</sup>常<sup>きょう</sup>に<sup>たの</sup>今<sup>たの</sup>日<sup>たの</sup>は<sup>たの</sup>楽<sup>たの</sup>し<sup>たの</sup>み<sup>たの</sup>に<sup>たの</sup>し<sup>たの</sup>て<sup>たの</sup>お<sup>たの</sup>り<sup>たの</sup>ま<sup>たの</sup>す。よ<sup>ねが</sup>ろ<sup>ねが</sup>し<sup>ねが</sup>く<sup>ねが</sup>お<sup>ねが</sup>願<sup>ねが</sup>い<sup>ねが</sup>し<sup>ねが</sup>ま<sup>ねが</sup>す。



せいかつたいけんはっぴょう  
II 生活体験発表

ちゅう はっぴょうぶん ろくおん お ひょうき かんじ はっぴょう  
注) 発表文は録音から起こしたものです。表記の漢字については、発表にあたって

さくぶん か かんじ  
作文が書かれており、それにもとづいております。また、ふりがなはすべての漢字に  
ふりました。

1 テレビで遠友塾のニュースを見て 大野 節子 (札幌遠友塾 じっくりクラス)



おおの せつこ もう えんゆうじゅく ねんまえ  
大野節子と申します。この遠友塾で、十五年前から

べんきょう いま じぶん じんせい  
勉強しています。今はじっくりコースで自分の人生を

か ちょうせん  
書くことに挑戦しています。

べんきょう はじ えんゆうじゅく  
勉強を始めるきっかけはテレビでみた遠友塾のニ

ュースです。勉強したくても勉強出来なかった人たちのための夜の学校についてでした。

み わたし べんきょう おも がっこう  
見てすぐに私もそこで勉強をしたいと思います。こんな学校があるんだ、もう、うれし

くてすぐさま電話をかけました。すると、電話に出た、工藤代表は「どうぞ、いいですよ、

いっしょ べんきょう こた ほんとう がっこう い  
一緒に勉強しましょう」と答えてくれました。本当に学校に行ける、うれしくて、うれし

くて、その夜は眠れなかった。

わたし からふと う しょうがっこう はい つぎ とし せんそう ま おおぜい  
私は、樺太で生まれました。小学校に入ったのですが、次の年、戦争に負けて、大勢

ひと にほん かえ せんせい ともだち むら すこ にほんじん あと はい  
の人が日本に帰りました。先生も友達もいなくなり、村にはほんの少しの日本人と後から入

ってきたロシア人だけ。だから、学校で勉強したのは一年半。その後は教科書もないし、先生

べんきょう なに ちい わたし いえ てつだ きょうだい あそ  
もないので勉強は何もしない。小さな私は家の手伝いのほかには兄弟と遊ぶことしか  
ありませんでした。

かぞく おおぜい ちち からだ よわ せんそう お かえ にほん もど  
家族が大勢で、父の体が弱く、戦争が終わってもすぐに帰ることができず、日本に戻

たのは、昭和25年のことでした。積丹に引き上げたのですが、それからの生活は大変でし

た。小学校の六年生に入ったものの、生活は貧しく、私は両親が海に漁に出かけた後、

家のこと、魚の始末、下の兄弟の世話、畑仕事に忙しく、学校にはほとんどいけません

でした。中学校も入学式と卒業式くらい、何も勉強せずに終わりました。

今でも、体を使うことには苦勞はありませんが、大の苦手が読んだり書いたりすること、

計算することです。それでも、勉強がしたい、文字を書きたい、計算したいとずっと思っ  
ていました。

遠友塾に入学して、「あいうえお」から勉強が始まりました。すぐにわかったといえま

せんが、机に向かって何かを学ぶことがとても楽しかった。それに、遠足やクリスマス会、

すべての行事がみんなと一緒に参加できました。一番感激したことは、工藤代表から卒業

証書を手渡ししてもらったことでした。生まれてはじめての経験です。その証書は今も

大切にしまっています。その時、みんなと写した写真には、本当にうれしくてたまらないと

いう私があります。私の一番の宝物です。

先生方から足し算や引き算を習いました。文字もきちんと書けるようになり、友達や知り

合いに荷物を送ることもできます。

「じっくりコース」が出来たとき、横山先生から電話があり、少し学校に来ませんかと

誘ってくれました。家のことや体のことで、休んでいた私に気をかけてくれたのです。ま

た、学校に行きたくなりました。来てみるとみんな優しく迎えてくれました。

何をしたいかと聞かれ、私のこれまでの人生を書くことにしました。子供たちや孫たち

が私のいなくなった後でも、私のことを思い出してくれるのではないかと考えました。

それに、<sup>わたし こども</sup>私は<sup>じぶん</sup>子供たちに<sup>はな</sup>自分のことをちゃんと話していたかという<sup>じしん</sup>と自信がありません。

<sup>せいかつ お</sup>生活に追われていたし、<sup>ぶんしょう か</sup>文章を書いたこともないのです。でも<sup>おも き</sup>思い切って<sup>か はじ</sup>書き始めました。

<sup>さんねんまえ</sup>三年前のことでした。

<sup>か はじ</sup>書き始めるともう<sup>たいへん げんこうようし</sup>大変。原稿用紙が<sup>いっぱい</sup>ひらがなで一杯。「は」と「わ」も、「お」と「を」も、

<sup>せいがい わたし</sup>たまに<sup>ないよう きゅう か</sup>正解の私です。内容が<sup>まえ うし</sup>急に変わり、前と後ろが<sup>せんせい</sup>つながりません。それでも、先生は

<sup>わたし ぶんしょう</sup>私の文章を<sup>よ</sup>キチンと読んでくれました。すると<sup>いま わす</sup>今まで忘れていたことが<sup>きゅう</sup>急に<sup>き</sup>あふれて来

<sup>からふと</sup>ました。樺太の<sup>しあわ じかん しゃこたん</sup>ゆっくりした幸せな時間、<sup>せいかつ ちち はは</sup>積丹の<sup>しゅじん</sup>つらい生活、父や母のこと、主人のこと、

<sup>きょうだい しんせき きんじょ ひと</sup>兄弟や<sup>おも だ</sup>親戚、近所の人たちのことが<sup>おも だ</sup>思い出されました。

それに<sup>からふと しゃこたん</sup>樺太、<sup>あと あぼしり せいかつ</sup>積丹、その後の<sup>うみ けしき</sup>網走の生活にあつた<sup>め う</sup>海の景色も<sup>め う</sup>ありありと目に<sup>め う</sup>浮かびまし

<sup>なみ おと き</sup>た。波の音まで<sup>き</sup>聞こえて来ました。

<sup>せんせい わたし ぶんしょう よ</sup>先生は私の文章を読んで「<sup>おおの こころ</sup>大野さんの心<sup>い</sup>がこもっている、<sup>わ</sup>言いたいことがはっきりと分

<sup>よ ぶんしょう</sup>かる<sup>まえ じぶん さくぶん よ</sup>良い文章だと、<sup>わら</sup>ほめてくれました。みんなの前で自分の<sup>わら</sup>作文を読んだとき、みんな笑っ

<sup>かんしん</sup>たり、<sup>はくしゅ</sup>感心したり、<sup>か ひと</sup>拍手して<sup>はじ</sup>くれました。書いたものを人に<sup>はじ</sup>ほめられるなんて、初めてです。

<sup>と あ</sup>飛び<sup>と あ</sup>上がるほど<sup>と あ</sup>うれしかった。

<sup>ひゃくえん</sup>百円<sup>えんびつけず</sup>ショップの<sup>くろう</sup>鉛筆削りに<sup>わたし</sup>苦労する私を<sup>まご ひとり</sup>みて、<sup>でんどうえんびつけず</sup>孫の一人が<sup>か</sup>電動鉛筆削りを買って来てく

<sup>わたし ぶんしょう よ</sup>れました。私の文章を<sup>むすめ</sup>読んだ娘が「<sup>かあ</sup>お母さん、<sup>こども</sup>子供の<sup>たの</sup>時に<sup>たの</sup>楽しいことがあつてよかつた。」

<sup>かわい</sup>といつてくれました。可愛がっているもう一人の<sup>ひとり まご</sup>孫は「<sup>か お</sup>書き<sup>ほん だ</sup>終わったら本を出そう」とまで

<sup>さわ</sup>騒いでいます。

<sup>か</sup>書いているうちに、<sup>じしん</sup>自信が<sup>だれ</sup>出て<sup>じぶん おも</sup>きました。誰とでも自分の<sup>はな</sup>思うことを、きちんと話すこと

<sup>しょうがっこう どうそうかい</sup>ができます。小学校の<sup>せつこ</sup>同窓会でも、あの<sup>べつじん い</sup>おとなしい<sup>ほんとう</sup>節子とは別人と言われました。本当に

じぶん せいかく か き  
自分でも性格が変わったことに気がついてます。

いま せいかつ か おも じぶん  
今までの生活をただ書いていたと思っていましたが、そうではないのです。自分がどれだ

いっしょうけんめいはたら ひと あたた ふ わたし からだ はい  
け一生懸命働いてきたか、そしてどれだけ人の温かさに触れてきたのか、私の体に入っ  
ていることに気がついたのです。書くうちに背負ってきた重い荷物が少し軽くなりました。

じんせい か あたら じんせい とびら き  
人生を書いただけなのに、新しい人生の扉がひらいたような気がします。

わたし ながい き わたし でんき お さき  
ただ私は長生きして来ましたので、私の伝記はまだまだ終わりそうにもありません。先

なが ほん すこ か  
は長いのです。本になるにはもう少しがんばって書かなくてはなりません。

ねが  
これからもどうぞよろしくお願いします。





## 2 わたし たいけん 私の体験

のぐち みのる はこだてえんゆうじゅく ねん  
野口 実さん(函館遠友塾 2年)



みなさま わたし はこだてえんゆうじゅく かよ  
皆様、こんにちは。私は函館遠友塾に通っており

のぐちみのる もう  
ます、野口実と申します。

にゅうがく りゆう ほっかいどうしんぶん さいいじょう たいしやう  
入学した理由は、北海道新聞に60歳以上を対象に

まな ば はこだてえんゆうじゅく た あ きじ よ  
した学びの場、函館遠友塾を立ち上げる記事を読み、

だいひやう いまにしせんせい でんわ ぼうし べんきやう にゅうがく いただ  
代表の今西先生に電話をかけて「ボケ防止のため、勉強をしたいのですが入学させて頂

けるでしょうか」とお聞きしたところ、「ぜひ、いらして下さい」と快諾されましたので夫婦

にゅうがく  
で入学させていただきました。

へいせい ねん がつ ねんせい にゅうがくしき きたい ふあん なか じゅぎやう  
平成21年4月ピカピカの1年生になり、入学式にのぞみました。期待と不安の中、授業

はじ いまにしせんせい はじ しよせんせいがた みな しんせつていねい しどう  
が始まりました。今西先生を始め諸先生方スタッフの皆さんの、親切丁寧なご指導をいた

ことし ねんせい しんきゅう きやうか ひと すうがく かげんじやうじよ はじ  
だき、今年2年生に進級することができました。5教科の一つ数学は加減乗除に始まり、

めんせき たいせき もと かた すす すこ こうど  
面積、体積の求め方に進んでおり、少しずつ高度になっていきますが、なんとかこなして

こくご ひらがな かんじ か じゅん はじ おんよ くんよ せつぞくし すす ことば  
おります。国語は平仮名、漢字の書き順に始まり、音読み、訓読み、接続詞と進み、言葉

ぶん さくぶん さくせい わたし なまえ かしらもじ つか  
をつなげると文になるということで、作文の作成がありました。私は名前の頭文字を使い

はる ふゆ だい じ さんぶん つく りか さくせい  
「春から冬へ」という題で500字ほどの散文を作りました。理科はプラモデルの作成で、

でんき げんり でんき なが かた どうりよく でんどう みじか こと はじ しゃかい はこだてやま な  
電気の原理、電流の流れ方、動力の伝導と身近な事から始まりました。社会は函館山の成

た はこだて れきし とく ごりやうかく ちくじやう ぼくまつせんそう さら よこはま つ ばんめ ふる きゆうすい  
り立ち、函館の歴史、特に五稜郭の築城、幕末戦争、更に横浜に次いで2番目に古い給水用

など すす さいきん さいばいんせいど べんきやう せいと なか さいばんちやう ほんじ けんさつかん べんごし  
ダム等と進み、最近の裁判員制度の勉強では、生徒の中から裁判長、判事、検察官、弁護士、

ひこくにんなど せんしゆつ せつとうじけん も ぎさいばん しんぎ はんけつまで おこな ご しつぎ  
被告人等を選出し、窃盗事件の模擬裁判を審議から判決迄を行いました。その後で質疑

おうとう べんきょう げんざい ゆうごんじょう さくせい わたし  
応答とずいぶん勉強になりました。現在は遺言状の作成にかかっており、私たちはそれ

じぶん たちば おも いっしょうけんめい つく えいご はじ  
ぞれ自分の立場を思いながら一生懸命に作っております。英語はアルファベットに始まり、

じ あいさつ すす わたし がくせい とき えいご てき くに ことば しょうきんし  
ローマ字、挨拶と進んでおりますが、私が学生の際は、英語は敵の国の言葉として使用禁止、

よ か まちじゅう かんばん えいご も じ き じだい ころ わたし  
読み書きもちろん町中の看板より英語らしき文字が消えた時代でした。その頃の私たち

がくせい きんろうほうし な せきたんにやく てつどうせんろこうじ ふゆやま はんば と こ もくざい  
学生は勤労奉仕という名のもとに、石炭荷役、鉄道線路工事、冬山の飯場に泊まり込み、木材

はんしゅつ いそが はたら はる ゆきどけ どうじ えんのう だ やく ねん  
の搬出と忙しく働きました。春の雪解けと同時に援農にかり出されました。約2年にお

えんのう いね なえづく たう じょうそう か い かんそう だっこく こめ かん いちれん さぎょう  
よぶ援農で稲の苗作り、田植え、除草、刈り入れ、乾燥、脱穀と、米に関しての一連の作業、

た まめるい など たね しゅう まで いろいろ べんきょう  
その他、ムギ、豆類、じゃがいも等、種まきより収かく迄と色々勉強になりました。

えんのうちゅう きゅうじつ ぐんじきょうれん またよ かれん しょうねんこうくうへい はんきょうせいでき しがん  
その援農中でも、休日には軍事教練があり、又予科練、少年航空兵への半強制的な志願

ようぼう わたし じょうず なんめい おうぼ  
要望がありました、私は上手にことわりました。クラスメイトの何名かは応募しました。

ねん ぶらの ちか やまべ えんのうちゅう ぶらの こうしゅう やね うえ み  
20年には富良野の近く山部で援農中でした。富良野が空襲されるのを屋根の上より見て  
いました。

がつしゅうせん はこだて かえ おも しゅう ぜんぶ  
やがて8月終戦をむかえ、すぐに函館に帰れると思いましたがだめで、収かくが全部

しゅうりょう がつ はい ききょう どうこう きょうしつ とっこうたいかえ はば  
終了した11月に入ってから帰郷となりました。登校すると教室では特攻隊帰りが巾

せんせい ちゅうい こま がっこう とくべつそうきそつぎょう な  
をきかせ、先生の注意もなんのそのでした。困った学校では、特別早期卒業という名のも

そつぎょう わたし じょうたい まんぞく べんきょう  
とに卒業をすすめました。私はそのような状態で満足に勉強できませんでした。

いまえんゆうじゅく かよ わかし しょうがくせい きも たの じゅぎょう う  
今遠友塾に通うことで昔の小学生にもどった気持ちで、楽しく授業を受けています。

えんゆうじゅく のう はたら ば まな ば ぶり がくしゅう つづ くだ  
「遠友塾は脳の働きの場、学びの場です、無理をせずマイペースで学習を続けて下さ

せんせい ことば あま かくえきていしや どんこう すす き つ じゅぎょう ま  
い。」という先生の言葉に甘えて、各駅停車の鈍行で進んでおります。気が付けば授業を待

じぶん はっけん しゅみ はいく どうげい りょうり ふる あたま さび  
ちこがれている自分を発見し、おどろいています。趣味の俳句、陶芸、料理と古い頭が錆

つかないよう<sup>かいてん</sup>に回<sup>かていさいえん</sup>転<sup>えんのうじだい</sup>させながら、家庭菜園<sup>おも</sup>で援農時代<sup>だ</sup>におぼえたことを思い出しながら、汗<sup>あせ</sup>をかいています。

遠友塾<sup>えんゆうじゅく</sup>での給食<sup>きゅうしょく</sup>は、生徒一同<sup>せいといちどうきょう</sup>今日はなにがでてくるのだろうかと、クラス一同<sup>いちどうたの</sup>楽しみにしております。私<sup>わたし</sup>は参加<sup>さんか</sup>できませんでしたが、春<sup>はる</sup>の観桜会<sup>かんようかい</sup>、秋<sup>あき</sup>の遠足<sup>えんそく</sup>とクラスの皆さん<sup>みな</sup>は、和気あいあい<sup>わき</sup>と食事<sup>しょくじ</sup>とゲーム等<sup>な</sup>を楽しんだ話<sup>はなし</sup>をきき、次回<sup>じかい</sup>はぜひ参加<sup>さんか</sup>したいと思っ<sup>おも</sup>ております。

私<sup>わたし</sup>の体験<sup>たいけん</sup>の一端<sup>いったん</sup>をお話<sup>はな</sup>ししました。



### 3 おやじ かんしゃ 親父に感謝

いしかわ おさむ くしろ  
石川 修さん(釧路「くるかい」)



ぼく くしろ き いしかわおさむ  
僕は釧路「くるかい」から来ました石川修ともうしま  
す。とし さい みな たいけん き じぶん  
す。年は66才になりました。皆さんの体験を聞いて自分  
じしん ぼく せんそう  
自身はおさないなあーとおもいました。僕は戦争の  
けいけん まった ぼく おやじ  
経験などは全くないんだけど、ただ僕の親父は

たいへいようせんそう ひだりうで な とき たいけん  
太平洋戦争で左腕を無くしているんです。ただその時の体験にそれもはいつております。

ねが ぼく つたな たいけん さつぼろ えんゆうじゆく い ぶん ぼなし  
よろしく願います。このたび僕の拙い体験を札幌の遠友塾に行って10分くらい話  
をしてほしいといわれて来ました。僕のつたない話ができることに僕はかんしゃしており  
ます。

さつぼろ ぼく だい いちどき こと  
札幌は僕にとって10代のころ、一度来たことがあります。それいらいの事ですので、15  
さい ぼく ねん さつぼろ  
歳のころ、僕にとって50年ぶりです。札幌のことはなにもわかりませんので、よろしくお

ねが ぼく さつぼろ き しょうねん こと はな じょう  
願います。僕が札幌に来た少年のころの事を話します。コトニにぼく場がありました。

じょう じょう あなほ き げつくらい いま どころふ  
そのぼく場にそっこうの穴掘りに来たんです。3ヶ月位いました。今でいうと土工夫、

どかた とき さつぼろ き とき さつぼろ かんどう  
土方ということなんでしょうか。その時、札幌に来た時、札幌はすごくあたたかくて感動

ぼく どうとう で ほっかいどう おお  
しました。僕は道東から出たことがないんで、それで北海道はひろい大きいとかんじまし

ご さい ときほっかいどう はな じかい かいごう  
た。その後、19才の時北海道を離れることになるんですが、そのことは次回こういう会合で

はっぴょう おも きょう さつぼろ き  
もあれば発表させていただきたいと思うけど、今日はそういうことでなく、札幌に来たの

いま きせつ きせつ おも ほっかいどう いちばん きせつ  
はちょうど今の季節だから、すごくいい季節だと思いますよ、北海道の一番いい季節じゃ

よう あたた ぼく なつ ほっかいどう す みな なつ  
ないですかね、要するに暖かくなって、僕は夏の北海道が好きなんです。皆さんも夏の

ほっかいどう いっしゆん なんかげつ あつ あつ おわ  
北海道なんて一瞬ですよ、あんな何か月も暑い暑いなんていっても、ああ終っちゃった

って感じになっちゃう。だから皆さんも楽しんで一夏を過ごしてほしいと思います。

すこし本題に入ります。僕は、中学校はほとんど行ってないんですよ。行ってないというより、3年間のうち、1年間位だと思います。このような状態でよく卒業させてもらったと思っています。僕が中学校の頃は、人も多かった。生徒の数も、釧路だって1クラス65人くらいいて、12クラスありましたからね。今でいえばとんでもないマンモス校ですよ。そういう感じのところで勉強してたんだけど、親父が太平洋戦争で左腕を失くしてしまって、その後僕の両親が離婚してしまう。兄貴が一人いるんだけど、兄貴が親父のところへ、僕がおふくろのところへ行った。僕が2、3歳のころだと思います。6歳になってから、僕は相当ワルガキだったと思う、僕はおふくろに投げられたというか、捨てられたという感じで親父の所に又戻ってきたという感じ、その時は、僕は6才。だからおふくろの所にいたのは2年か3年位。要するにおふくろの所で小学校に入っても小学校を1年生またやり直し。6才のとき又親父の所で小学校やり直し。そこからハイ、スタートという感じ。そのような状態だったから、それに甘えたのか僕もわかんないけれど、その後おやじが亡くなるまで、僕は北海道にいました。おやじは53才で亡くなりました。僕が19才の時です。そのようなじょうたいで少年キだったので、12才の時はこんぶ干し、さんまのカスタキ(粕炊き)など親父についてやっていました。親父はようするに学校行け、勉強しろ、その口ぐせで言われた。言われたけど、学校行っても面白くない、行ってもわからない、わからないからやらない、の繰り返しで、僕自身も勉強嫌いだったんだろうね、それもあると思うんだけど。

親父の「さんまのカスタキ」のことちょっと書いてあるんだけど、「さんまのカスタキ」。

いま むかし はなし むかし はなし ぼく とし  
今じゃ昔の話、昔の話になっちゃって、僕も66で年齢をとったということなんけど、  
さんまのカスタキをお話ししたい。皆さん分かんないでしょうね、さんまがたいりょうの時、  
れいとう な はなし おお あぶら み  
冷凍なんか無かったころの話だから。大カゴでさんまをニテ、それをしばって、油と身と  
み むしろ うえ ひろ  
わけ、身はかんそうさせ 蓆の上で広げて、かんそうさせてひりょうにしていました。今  
ちょうほう  
重宝されているかたもいるようです、そのようなことをやっていました。

ねん はる くしろ やかんちゅうがく かいこう とき すこ はな  
いっさく年の春、釧路で夜間中学が開校されたんだけど、その時のことを少しお話しし  
よう しんぶん くしろ かいちょう かた  
ます。要するに新聞でしょうかいされていきました。それで釧路の会長さんみたいな方、か  
でんわ にゅうがく にゅうがく こと  
ねむらさんに電話れんらくして入学しました。入学してわかった事は、なにもわからな  
こくご さんすう えいご ぼく しょうがっこう べんきょう きら  
い、国語、算数、英語、なんてなにもわからない。僕も小学校のころから勉強が嫌いで、  
とし きゅう でき  
この歳になったから急に出来るわけがない。

いま  
今はどんなことやってるかといったら、とりあえず、国語の漢字の書き取り。そんな僕は  
みな お こ きも お こ い かた  
皆さんを追い越そうなんて気持ちはまったくない。追い越して行く方は、どうぞどうぞマ  
がっこう い やかんちゅうがく い ぎょうじ さんか  
イペースでやっているから。学校へ行って、夜間中学へ行っていろんな行事に参加させて  
かんどう かんしゃ やかんちゅうがく つく かたがた  
もらう。そういうことにも感動して感謝している。夜間中学を作ってくれた方々にも、  
じんりょく かた たくさん かんしゃ ぼく おも  
尽力された方も沢山いるんだけど、そういうことにも感謝したいと僕は思います。

さいご い おやじ かんしゃ おやじ いちばん い おやじ じんせい  
最後に言っておきたいことは「親父に感謝」。親父が一番言いたかったことは、親父の人生  
いちばんなんだい せんそう かたうで おと ぼく おも  
で一番難題だったのは、やはり戦争で片腕を落したということではないかと僕は思ってい  
ぼあい せんそう さいご  
ます。だからこれから、どのような場合であっても「戦争だけはやめようよ」それだけを最後  
い よう せんそう な くに かんが  
に言って、要するに戦争の無い国になってほしいと考えています。

きょう  
今日はありがとうございました。

#### 4 たの はこだてえんゆうじゅく 楽しきかな函館遠友塾

のぐち のりこ はこだてえんゆうじゅく ねん  
野口 徳子さん (函館遠友塾 2年)



みなさま はこだてえんゆうじゅく ねんせい のぐちのりこ  
皆様こんにちは。函館遠友塾 2年生の野口徳子でござ  
います。

ほんじつ さっぽろ く うれ おも  
本日は札幌へ来ることができて、とても嬉しく思  
っています。皆さん、ありがとうございます。本日のテ  
ーマは「楽しきかな函館遠友塾」です。

わたし だい とき じぶん ふちゅうい かいだん あし ふ いっき した  
私は 40代の時、自分の不注意により階段のてっぺんから足を踏みはずして一気に下に  
落ちて、首と腰に怪我をいたしました。ですが半年ほどで、自分で何とか歩けるようにな  
って、嬉しかったんですけれど、それから少しずつ徐々に徐々に何か変だなかんじになり  
まして、50代後半でまったく脚が上がらない、進まない、というじょうたいになりました。  
それで先生が「いずれ歩けなくなる状態になる」とおっしゃいましたので、これでは大変  
だ、人のやっかいになるのは大変だと思ひまして一念発起しまして自動車教習所へ行き  
ましたのが、62才でした。2か月かかりまして、普通自動車の免許を獲得いたしました。  
だからといってたいして乗ってあるかないで、いつも主人の隣の助手席に座っているわけ  
ですけれど、ゴールド免許ですけれど、それは主人のおかげでして、私が運転が上手なわ  
けでもなく、事故を起こさないわけでもないんです。ただもっているものですが、いず  
れ書き換えのときがありますから、しっかり運転の勉強をしようと思っています。

あたま ほう ある ものおぼ わる ものわす いじょう はや  
頭の方も歩かないせいでしょうか、物覚えが悪くなりましたし、物忘れが異常に早いん  
ですね。それでこれは大変だと思ひまして脳の活性化を考へていました時に、函館遠友塾  
の募集の新聞記事で読みました。主人に話しまして、二人で入学させていただくようにお

でんわ さくねんにゆうがく  
電話いたしまして、昨年入学いたしました。

きょうか なら こくご すうがく しょうがくせい とき きおく  
それで5教科を習っているわけですが、国語と数学はどうやら小学生の時の記憶が  
なん  
かすかにあるらしく何とかついていっているんです。

こくご ぶんしょう え か みな いろえんぴつ も  
国語は文章のよこに絵が描いてあるものですから、皆さんが色鉛筆持ってきてまして、  
たの せんじつ ことわざ べんきょう くさ  
それで楽しむんですけれど、先日は 諺 の勉強でした。「臭いものにはフタをせよ」なん  
え  
ですけど、絵がかわいらしい。セト物のフタ付きカメが書いてあったんですけれど、それ  
じょうず ねんだいもの いろ によ た しょうす  
を上手にカメに年代物のように色をぬり、そこからイヤな臭いが立ちのぼっている様子、  
まわ むし と まわ え か ひと せんせい  
周りにどうもハエらしき虫が飛び回っている絵を書きたした人がいて、先生にこのような  
え か ひと もう みな おお かのじょ  
絵を描いた人がいますよと申しましたら、皆さんに大うけなんです。いっぺんで彼女は  
すば え か みな ほ  
「素晴らしい絵を描くね」ということになりました。皆さんから誉められたんです。

すうがく いちねんせい とき も あ せんせい けいみょう はな かた おぼ わか  
数学は一年生の時からの持ち上がりの先生です。軽妙な話し方でとっても覚えやすく解  
りやすく指導をするのですが、とっても親切なんです。けれど、数学の授業があろうが、  
なかろうが、A4判2、3枚にびっしりの宿題が毎週必ず出されます。先生がお休みに  
なっても絶対出るんです。これでみな苦勞しているんですけれど。先日面積の勉強をしまし  
とき しょうじつ なか はか とき みな も  
た時に、「さあこの教室の中を計りましょう」という時、皆さんがそれぞれメジャーを持っ  
だいこんざつ せま しょうじつ なか い い ふたり  
てきているので大混雑です。狭い教室の中をあっちに行ったり、こっちに行ったり、二人  
さんにん はか せんせい こえ ぜんぜん き  
三人で測りだして、しばらくしてから先生が「ハイ、そこまでです。」という声も全然聞こ  
え ない。「ワーッ」と言う声で、更に先生が大きな声で「終わり、終わりです。」と言っ  
しょうがっこう べんきょう  
たら、みんながハッとしたら「なんだって、みんなは小学校の勉強をしているからといっ  
ほんとう しょうがくせい おな おな こうどう  
て、やることは本当に小学生と同じだね、同じ行動するんだね、タマゲタモンダ。」とい



せんせい ことば じぶん せき もど となりきんじょ みわた おおわら だいたい  
う先生の言葉にみんなサッサッと自分の席に戻って、隣近所、見渡して大笑いでした。大体  
がいつも、楽しいその授業風景です。

りか い りか じどうしゃ つく とき め  
これは理科にも言えることです。理科はプラモデルで自動車を作りました。その時は眼が  
わる こま き ぶひん した お となり  
悪いから、細かく切ったはずの部品があったはずだけど、下に落ちたんでないかい、隣に  
いったんでないかい、これまた大騒ぎです。リード線どっちが長い、短い、どうする  
の、つなぐの、つながないの、大騒ぎなんです。私は絶対自分では出来ないというのをわ  
かっていますから、もうこれは安心して主人にまかせましょうと隣をあてにしてチラッと  
み した せん も いっしょうけんめい ほう  
見ましたら、その主人なる人は隣近所の人、プラモデルを持って一生懸命何やら、端の方  
も 持ったり、つなげたり、細かいところ切ってあげたり、主人のチラッと見ましたら、何に  
も作ってないんですね。これは私が頼んでもだめだと思ひまして、当日先生が「もう時間  
ないからみんな持って帰りな、家で作ってきなさい。」というものですから、家に持って帰  
ったって主人は自分の作るのに一生懸命であてになりませんから、娘の所に行きまして、  
ねんせい まご はっしん ま  
6年生の孫にSOSを発信しました。そしたらあつという間に「こんなのおばあちゃん  
できないの」と瞬く間に作ってくれたのです。その調子で理科はなんとかおさまりました。

しゃかいか とき せんきよ まえ いっぴょう とうひょう  
社会科の時はですね、ちょうど選挙の前だったものですから、みなさんに一票の投票す  
る重み、一票の大切さ、国民というのは義務と権利の主張ばかりではだめで、責任の重さ  
というものを先生が、かみくだいて、よくわかるように、お話しして下さいましたので、  
みんなも納得して、多分遠友塾のみなさんは100%選挙に行ったのではないかと思ってお  
ります。

いちばんじゅぎょう たいへん えいご たんご で  
一番授業で大変なのは英語でして、スプリングだとか、単語が出てきますと、みなさん、

みなさんという失礼でしょうか、私を含むほとんどの人がカタカナで書き込みを入れる  
んですね。先生が「しっかりカタカナで書いたかい・・・もう安心だね」と言ってみな  
が読むんですね。そうすると先生が「なに、なまってるべき、これ函館弁の英語だべき、  
アメリカに行っても通じない、通じない。」といわれるんですよ。でもみんなはそれにめげ  
ず、一生懸命、ハツラツと頑張って勉強しております。

私たち函館遠友塾ではですね、毎月最終の週に給食がありまして、それはスタッ  
フの先生やお手伝いして下さる方が4、5名と生徒が10名位で作るんですけど、本当に  
かわいらしく、折り紙付きのクリスマスであればサンタクロースとか、お雛様であればお雛  
様とか5月であれば男のこの節句のような兜とか折り紙で、それは生徒が作るらしいん  
ですけど、載ってくるんですね。それで盛りつけは色も考えて、よく皆さん考えるな  
一というほど上手に、ほんとうに3品くらいなんですけれど、作ってくるんです。味は皆さ  
んそれぞれ、腕に自信があるんでしょうね、おいしいのができるんですよ。でも毎月、さ  
つき主人から話出ましたけれど、みんな楽しみにしているんです。

まいかい勉強が始まる前にホーム・ルームがありまして、お知らせとかがあります。ホ  
ム・ルームの最後には皆さんが、昔覚えてたうたとか、今聞き覚えがあるなとか、小学校  
の歌とか先生が選ばれて1曲歌うんです。それから気持ちを切り替えて、1年生、2年生  
に分かれて授業に入るわけです。

今年は函館遠友塾の校歌も出来まして、私たちが1年生、2年生と続けて習っており  
ます。数学の前田秀治先生が作って下さったんですが、本業は音楽なんだそうです。「作曲  
なんてずいぶんしたりしたんだよ」ということですから、ご自分も歌も上手ですし、得意な

んでしょうね、それで校歌を作<sup>こうか つく くだ</sup>って下さいましたもんで、函館遠友塾<sup>はこだてえんゆうじゅく</sup>の校歌「遠友<sup>こうか えんゆう</sup>」とい  
うんですけれど、それの一番<sup>いちばん</sup>だけを、ここでご披露<sup>ひろ</sup>させていただ<sup>おも</sup>いと思います。

♪～ <sup>ともえ うみ しおかぜ がぎゅう もり まも</sup> 巴の海の 潮風と 臥牛の森に守られて <sup>いま つど われ</sup> 今、集いし我ら <sup>まな</sup> ところしえに  
<sup>まな</sup> 学べ <sup>はげめ</sup> はげめ <sup>うた</sup> 歌え <sup>こえたか</sup> 声高らかに <sup>まな</sup> 学びの友と <sup>とも</sup> うちつどい  
<sup>えんゆう えんゆう わ ぼこう</sup> 遠友 遠友 我が母校 ♪～

<sup>せいちょう</sup>  
ご清聴ありがとうございました



5 歴史ある二十年

別所 美恵子 (札幌遠友塾 3年)



わたし じぶんひとり べんきょう ちから た ぎむ  
私は、自分一人で勉強する力が足りなく、義務

きょういくきかんちゅう じゅぎょうないよう わ じゅぎょう  
教育期間中は、授業内容が分からず、授業について

いけない、ただ机の前に座っているだけの落ちこぼれ

でした。勉強の仕方も分からないので、復習も予習な

ども全然しないで、いつも後悔して過ごしてきました。

どこかで少しでも、学べる所があったらいいな、と常々思っていました。

2007年、新聞で拝見して、通ってみたいと思っていた、夜間中学にそーっと TEL をして

みました。「今年はまだいっぱいで、入学できません」とことわられて、ガッカリしました

が、「来年の分として、話はうかがっておきますので、又電話してみてください」と言われ、

一年間待って2008年5月から、思った通り通えて良かったと思う。

一年生をスタートでき、新鮮な緊張した気分で通学してもう今年三年生になってしま

いました。秋の楽しかった遠足のおかげで、諸先生とか、クラスメートとも一気に打ち解け

て、和やかな授業が受けられました。スタッフの皆さんは、昼は社会人だったり、学生さ

んだったりする忙しい中なのに、熱心な心暖まる好意にただ頭がさがります。

勉強が分かりやすく、取り組むことができるようにと、問題作りにしても小道具を用意し

たり、プリントも、分かりやすく丁寧に書いてくださったりと、数学にしても、英語にして

も取り組みやすいです。社会は、歴史とか地理などもあり、一年生の二学期には、旅行に出

かけたくなるように、行きたい土地の産業や、特産品とか町がどのように発展して栄えて

いるかなど、皆さんに来てもらえるように、ピー・アールする町の大きなパンフレットを作  
って発表したので、教室にしながら、たった一時間で北海道中を旅行できたりと、ただ難  
しい事ばかりでなく、夢をふくらませ、楽しみながら学ばせて頂いています。この時も若い  
スタッフの方が、重かったであろう道内中のパンフレットをたくさん用意してくださった  
りしました。おかげですてきなピー・アールが出来ました。

私達は昨年わたしたち さくねんから向陵こうりょう中学校ちゅうがっこうのご厚意こうい がっこうで、学校つかを使わせて頂いただいていますが、会場かいじょうを設定  
するのに、長い年月なが ねんげつ、並大抵なみたいていの努力どりょくではなかったかと思おもいます。工藤代表くどうだいひょうやスタッフの皆みな  
さん、よく、投げ出な ださないで頑張がんばってきてくださいました。一人ひとりで勉強べんきょうしたくても、なかな  
か勉強べんきょうの仕方しかたも分わからず、困こまっている人はまだひとまだ全国ぜんこくにもたくさんおもいると思おもいます。

今は少子高齢化いま しょうしこうれいかで、子供こどもさんの人数にんずうが少すくなく、校舎こうしゃも学級減がっきゅうげんや廃校はいこうになっいたりしている  
ようですが、地域住民ちいきじゅうみんにも貸かして頂いただいて、有効ゆうこうに活用かつようさせて欲ほしいものです。

夜間中学やかんちゅうがくに集あつまって勉強べんきょうをさせて頂いただいても、週しゅうに一日いちにちの二時間にじかんだけではなく、まだま  
だ教おしえて欲ほしい事ことがたくさんあるので、せめて三日みっか、欲よくを言いえば五日いつか全部ぜんぶを、学まなびの日ひとし  
て欲ほしいくらいです。人生じんせいは長ながいようみじかで短みじかいです。今向陵いまこうりょう中学校ちゅうがっこうを拝借はいしゃくしている夜間  
中学生ちゅうがくせいの皆みなさん、通学つうがくしてくる姿すがたはいきいきと笑顔えがおで輝かがやいて、楽たのしそうにしています。

現在の夜間中学生げんざい やかんちゅうがくせいは高齢者こうれいしゃ（シニア）ですが、不登校ふとうこうの若い世代わか せだいが、家庭かていの中なかにも大勢おおぜい  
いるようなので、私達わたしたちは三年間さんねんかんで卒業そつぎょうしてしまいいますが、スタッフの皆みなさん、この輝かがやかし  
い夜間中学やかんちゅうがくが、この後あとにも長続ながつづきして継けいぞく続ぞくしてください。「継けいぞく続ぞくは力ちからなり」学まなべる事ことは苦くつう  
でなく、楽たのしい人生じんせいに変わかります。

北海道ほっかいどうの中なかには、今四ついまよほど、夜間中学やかんちゅうがくができたそうですが、これからくさりどんどん鎖くさりはつ

ながって<sup>ふ</sup>増えたら、<sup>こうりゆうかい</sup>交流会などとか、<sup>しゅうがくりょこう</sup>修学旅行とか<sup>ゆめ</sup>夢も<sup>たの</sup>ふくらみ、<sup>じんせい</sup>楽しい人生になること  
でしょう。<sup>わたしたち</sup>私達は<sup>いませいしゅん</sup>今青春し、<sup>かがや</sup>輝ける<sup>じんせい</sup>人生に、<sup>ひとつぶ</sup>一粒の<sup>よろ</sup>喜びを<sup>むね</sup>胸に<sup>まな</sup>学ばせて<sup>いただ</sup>頂いて、<sup>こうもん</sup>校門を  
くぐっています。<sup>みな</sup>スタッフの<sup>あいじょう</sup>皆さんの<sup>なが</sup>愛情<sup>と</sup>あふれる<sup>く</sup>長い<sup>かんしゃ</sup>取り組みに、<sup>かんしゃ</sup>感謝の<sup>気持ち</sup>でいっ  
ぱいです。

ありがとうございました。<sup>こんご</sup>今後<sup>ねが</sup>も<sup>いた</sup>よろしく<sup>ねが</sup>お願い<sup>いた</sup>致します。



### Ⅲ 発言交流 (会場参加者による感想、質問)

質問 釧路のくるかいの方は、学校は楽しくなかったと話されましたが、今くるかいに通  
ってどうですか。

答え (石川さん) 楽しいですよ。幼いころは価値観

いうもの何も分からないですごしてしまっし、僕の

少年のころ敗戦で国が貧しかったころの話なので、今の

人たちとちょっと話がずれてしまう。当然、同じ価値観で物事を考えろといってもそれ

は無理ではないかと僕は思います。今はいい時代だからそれに乗って、ちょっと俺もやっ

てみようかなと思う話で、そういういい時代になったのだからそれでいいし、ぎゃく戻り

にならないようにやっていただければいいと思います。「くるかい」はいろんな行事をして、

8月には焼き肉パーティー、春採湖もいろいろ探索しようなどという話もあるし、楽し

いこともあるので、僕も参加させていただきます。

発言者 一番最初に発表された大野節子さんのはなしを聞いて涙ぐんできて、と

ても良い話を聞かせていただいたと思いました。素晴らしい文章を書くように、これか

らも自分史の作成頑張ってください。

司会者 今、発言されたのは伏見さんです。伏見さん

は去年の札幌遠友塾「20年の集い」がありましたね、あ

の時発表してくださいました。



はつげんしゃ くしろ いしかわ おう せんそう かた なく  
**発言者** さきほど釧路の石川さん、お父さんが戦争で片うでを失くされたということを  
き わたし おも わたし ちち せんそう ゆそうせん とちゅう  
聞きまして、しみじみ私 もそう思います。なぜなら、私の父も戦争で輸送船でゆく途中で  
かえ ひと せかい せんそう せんそう せんそう  
帰らぬ人になっちゃたんですね。ですからこの世界はまだ戦争やってますから、戦争のな  
くに せかい ひと しあわ おも じぶん ねん  
い国に、世界の人が幸せになってほしいと思います。つくづく自分のことをこめて。2年  
せい さつぽろえんゆうじゅく なかむら  
生（札幌遠友塾）の中村です。

はつげんしゃ みな あおき もう じつ くしろ じしゅやかんちゅうがく  
**発言者** 皆さんこんにちは、青木と申します。実は、釧路の自主夜間中学「くるかい」  
かん なに き わたし かい し  
の菅さんからこちらで何かあるとお聞きしまして、私 こういった会だというのは知らなく  
おとず うけつけ わたし かいいん うけつけ かた  
て訪れました。受付で「私、会員でないんですけどいいですか」と、受付の方にきいた  
き  
ところ、「もちろんですよ、いいですよ」ということで聞かせていただいたんです。

わたし そしき みな かつどう わたしはじ  
けれど、私 こういった組織があつて皆さんが活動されているということ、私初めてこ  
ぼ し とちゅう きんか みな はつげん き げんたい こ  
の場で知りました。途中から参加させていただいて、皆さんの発言を聞きまして、現代の子  
かんきょう がっこう い い まな  
どもの環境であれば、学校であれば行きたくないけどただ行かされているとか、あとは学  
かんきょう まな じっさい ぶぶん おも  
べる環境はあるんだけど学びたくないという、実際の部分があるということだと思いま  
す。

やかんちゅうがく かよ かた まな いよく まな  
あとは、夜間中学に通われている方に学ぶ意欲がすごくありますし、いままで学べない  
じしゅてき まな こと みな はなし わたし なん し  
というふうに自主的に学ぶ事を皆さまのお話から、ああ私って何て知らないことがあつ  
わたし とし かせ わたし まな おも  
たんだらう。私も年を重ねていっても、私もどんどん学んでいきたいなあーと思います。  
なに なに おも て あ  
また、何かできることあれば何かさせていただきたいなあーと思い、つい手を上げてしま  
いました。

ほんとう みな まな かた おし かた さきほど かん い  
本当に皆さん、学ばれている方、教える方も、先程、菅さんが言っていたんですが、や



ってることで、逆に学ばされているとおしゃっていました。本当に、お互い相乗効果で良  
いように回っていくように思いますので、ぜひみなさんでがんばって行って下さい。私も  
何か伝えて、広がっていくためお手伝いをさせていただきたいと思います。

ありがとうございました。

**司会者** 一つだけ公立夜間中がある千葉県に、もう一つ公立中学をという動きがあり  
まして、励ましの集会ありまして、札幌遠友塾じっくりクラスの伊藤フサ子さんが参加し  
て意見をのべました。

つぎの日、公立夜間中学校を卒業したけどまだまだ学びたいという人たちが集まって  
「えんぴつの会」を見城先生が続けています。伊藤フサ子さんもお手紙のやりとりなんか  
もしていて、交流してきました。その時の様子をフサ子さんからお話していただきます。

**発言者** こんにちは、伊藤フサ子です。

私は生まれて初めて東京に行って、そして千葉に行ってお会いして、皆さんとっても  
いい方で、自分でも行けると思っていなかったから、皆さんの後ろをくっついて、すごく心  
から交流していろんな話をさせてもらいました。

でもやっぱり、学校が無いということは、ちょっと寂しいな、あればいいなと思いまし  
た。

私も東京に行けたんだと思って、これには皆さんの協力で、工藤先生にもおんぶし  
てもらったり、本当に申し訳ないと思っています。

でも本当に行ってきた楽しかったです。これからも勉強いっぱいしたいなあーと思うし、  
漢字まだまだ分からないから、もっと覚えたいなあーと思って。見城先生もとってもいい

かた  
方です。ありがとうございました。

はつげんしゃ みな さつぼろえんゆうじゅく たんとう よこぜき もう  
発言者 皆さん、こんにちは。札幌遠友塾 じっくりクラス担当のスタッフ横関と申しま  
す。

わたし こんかい ち ぼ やかんちゅうがっこう こうりゅうけんしゅうかい さんか いちにちめ  
私は今回千葉の夜間中学校の交流研修会に参加してきましたんですけれど、一日目に  
ち ぼ やかんちゅうがっこう つく うご こんかい ざんねん  
千葉に夜間中学校を作るといような動きがあったんですけれども、今回は残念ながら  
やかんちゅうがっこう はなし き  
夜間中学校ができることにはならなかったというお話 を聞きました。

ふつか め けんじょうせんせい うんえい かい かた さつぼろえんゆう  
二日目なんですけれど、見城先生の運営している「えんぴつの会」の方たちと札幌遠友  
じゅく いとう こ こうりゅう かい かた まな ひとり  
塾の伊藤ふさ子さんの交流がありました。えんぴつの会の方たちの学んでいるお一人が、  
タクシードライバーをされている方なんです。

かれ がくとどういん せんじちゅうべんきょう かんきょう がくせい とき すみだ  
彼も学徒動員で戦時中勉強ができないような環境にあった。学生の時に、きれいな隅田  
がわちか こうえん ひと ぐん ぼくげき な ひと  
川近くの公園でたくさんの人たちが、アメリカ軍の爆撃によって亡くなった。その人たち  
まいそう あな ほ う さぎょう かわ みず かわ ひと むら  
を埋葬するために穴を掘って埋める作業をされたり、川の水にのどが渴いた人たちが群が  
って、そういった場所でどどん人死んでいく、そういうような環境で勉強しなけれ  
ばいけなかった。そういう青年期を送られた方の方でした。その方はタクシードライバ  
ーをされていたわけですが、そのお仕事が終わったあとに夜間中学の門をくぐる訳なんで  
す。

とうきょう こうりつやかんちゅうがっこう こう なか ひと ちゅうがく い わけ  
東京には公立夜間中学校が8校ありますので、その中の一つの中学に行かれる訳なん  
がっこう ねんかんべんきょう がっこう きゅうしよく ぶどうかん  
です。その学校で3年間勉強をしました。その学校には給食もありますし、武道館もあ  
ります。授業がおわると教室や職員室を掃除したり、楽しく学校に通ったようです。

かい こうりつ やかんちゅうがっこう ねんかんべんきょう あと べんきょう  
えんぴつの会は、公立の夜間中学校を3年間勉強した後にも、まだまだ勉強したいと  
いう、そういう思いに込えられるようなそういう場所を、見城先生を中心につくってい

ます。

げんざい はいこう ちゅうがっこう きゅうこうしゃ すみだく か ひと  
現在は廃校になった中学校の旧校舎を墨田区からお借りして、たくさんの方がそこで

まな げんざい ぼじょ じじょう つか  
学んでいます。現在はその場所もいろんな事情で使えなくなるような、そういうようなお

はなし えいが みうら  
話もありました。「こんばんは」という映画があるんですが、それにでてくる三浦さんと

かた はなし き くだ かた こうりゅう きかい も  
いう方がお話しに来て下さったり、たくさんの方と交流の機会を持ってました。

ひと しつもん はこだてえんゆうじゅく かた のぐちのりこ はなし き ひじょう たの  
一つ質問してもいいですか？函館遠友塾の方の野口徳子さんのお話を聞いて非常に楽

じゅぎょうふうけい め まえ あらわ く たの はなし き  
しい授業風景が目の前に現れて来るような、そんな楽しいお話を聞かせていただきました。

のぐちみのる はなし なか はこだて えんゆうじゅく きゅうしょく で はなし  
野口実さんのお話の中で、函館の遠友塾には給食が出るというお話だったのです

ぐたいでき で  
けれども、具体的にどういうものが出るのですか？

こた わたし のぐちのりこ  
**答え** 私(野口徳子さん)からでよろしいでしょうか。

きゅうしょくしつ はいぜんしつ  
たまたま給食室がというより配膳室なんです、ここで

りょうり おし ようび しゅじん おとこ  
料理を教えたりしている曜日もあるんですよ。主人は男

りょうりきょうしつ かよ つく  
の料理教室というんですが、そこに通っていつも作って

えんゆうじゅく つきいつかいきゅうしょく ひ きょうしつ  
いるんです。そうしたことから、遠友塾で月一回給食の日があります。ただ、教室が

おな ところ かぎ かいぎしつ かい かい かい かい  
いつも同じ処に限らないということもありまして、会議室が4階と1階、3階と1階とし

しょくじ も はこ たいへん かん なんじゅうねん  
ますと、食事の持ち運びが大変ですので、この間は何十年ぶりのコッペパンにしました。

きゅうしょく ひ みそしる つ もの  
給食の日はいつでもおにぎりがあるんです。おにぎり、味噌汁にお漬物なんですけ

ぶたじる みな  
れど、それがいつのまにやら豚汁になってみたり、カレーになってみたり、皆さん、どな

やさい きそう くだ かた せいと みな じぶん  
たか野菜を寄贈して下さる方もいらっしゃるらしくて、それと生徒さんの皆さんが、ご自分



で、料理に自信があるんですよ。お漬け物がいろんな種類出てきましたし、その  
コッペパンの時はクリームシチューでした。クリームシチューにゼリーとかヨーグルトと  
か、3、4種類出たものを皆さん好きなものを選ぶというやり方です。ですからその時に  
よって、いろいろちらし寿司の時もありますし、いなり寿司の時もありますし、皆さん工夫  
なさって、それはもう生徒さんもスタッフの皆さんも、何かの形で、ご自分でご自宅から  
持って来られるんでしょうね。そういう形で本当においしく豪華に食べさせていただいて  
いるんです。

**発言者** こんにちは。卒業生の葛西ミツ子と申します。今年の3月、高校を卒業しま  
した。ここ札幌遠友塾を3年間で卒業して、それから先生方のおかげで有朋高校という  
ところに推薦入学させていただきました。そして、そこは通信制ですけれど4年間をかけ  
て、今年の春卒業しました。1年先輩には、今いらしているんですけれど、大村さんが優  
賞を卒業式にもらいました。私も続いて今年いただきまして（拍手）、守田先生に嬉し  
さをしまい切れずにご報告しました。3年間ずっと国語を教えていただいたものですから、  
頼りがいのある先生だったんです。それで先生に報告しまして、先生は喜んで、私の  
卒業式の姿を見に来て下さいました。すごく嬉しくて、涙が出そうでした。だから皆さ  
んも頑張って、卒業したら高校にも行かれるということを報告したかったんです。

**発言者** なまってる大村つる子です。今日は仲間が増えたようで嬉しかったです。そし  
て自分では歌がうまいと思っていましたが、函館遠友塾の校歌を聞いて感激いたしました。  
どうもありがとうございました。

**発言者** 皆さんこんばんは。卒業生の大友と申します。遠友塾の卒業は、何期生か忘

れてしまいました。遠友塾を卒業してから有朋高校に行きまして4年間で卒業して、今  
卒業したあとの人生で、今年で3年目になります。勉強はとても好きなので、これから  
も機会があればずっと続けていきたいなって思っています。

それで、今日皆さんの生活体験を聞かせていただいた  
んですけれども、私も有朋高校にいた時に、4年生の時  
に、学校に行ったということで何か記念に残したいと思  
いまして、生活体験の経験をさせていただきました。そ



の生活体験をなぜする気になったかという、二つ理由がありました。

一つは、皆さんも分かっていると思いますが、遠友塾の素晴らしさを一人でも多くの皆  
さんに伝えたいなっていうのと、もう一つは有朋高校って結構若い人もいるんですけれど、  
授業中に寝ていたりしてる人がいるんですよ、それで、なんかすごくもったいないこ  
とをしているなど、学ぶということは将来につながることでしょね。

いろいろな知識を得るといことは、自分が成長していく上で、大人になった時に、い  
ろんな面で役立つことが一杯あるので、就職にも役立ちます。自分自身も、いろんな面  
で役立ったので、そういうことを分かってもらいたいなって思っていて、若いからまだ分からない  
と思うんで、先輩として、親の年齢の私から、そういう体験を話すことによって気づいて  
もらえればなというのもあったんです。自分の経験をふまえながら発表させていただきました。

そのことをちょっと思い出したんですけれども…。野口さんご夫婦の後ろ姿をながめて、  
奥様が発言されている時に、ご主人の後ろ姿がすごくほほえましく、うなずきながらとい

う<sup>ようす</sup>様子がすごく<sup>つた</sup>伝わって<sup>く</sup>来る<sup>とし</sup>んです。年をとっても<sup>ふうふかんけい</sup>こういう夫婦関係<sup>おも</sup>っていいなと思っ  
て  
いました。それを<sup>ひとことつた</sup>ちょっと一言<sup>おも</sup>伝えた<sup>か</sup>かった<sup>ん</sup>です。

<sup>はつげんしゃ</sup> <sup>たか</sup> <sup>わたし</sup> <sup>さつぼろじしゅ</sup>  
**発言者** 高い<sup>たか</sup>ところ<sup>ところ</sup>から<sup>から</sup>すみ<sup>すみ</sup>ません。私<sup>わたし</sup>は<sup>は</sup>札幌<sup>さつぼろ</sup>自主<sup>じしゅ</sup>  
<sup>やかんちゅうがっこう</sup> <sup>きせい</sup> <sup>おおの</sup> <sup>どうき</sup> <sup>そつぎょうせい</sup>  
夜間<sup>やかんちゅう</sup>中学校<sup>がっこう</sup>の<sup>の</sup>6<sup>きせい</sup>期生<sup>せい</sup>、<sup>たぶんだいの</sup>たぶん<sup>おの</sup>大野<sup>さん</sup>さんと<sup>どうき</sup>同期<sup>で</sup>、<sup>そつぎょうせい</sup>卒業<sup>せい</sup>生<sup>せい</sup>  
で<sup>で</sup>スタッフ<sup>たふ</sup>になった<sup>な</sup>たもの<sup>もの</sup>です。それから<sup>えんゆうじゅく</sup>ずっと<sup>じゅく</sup>遠友<sup>えんゆう</sup>塾<sup>じゅく</sup>に  
おります。今日<sup>きょう</sup>この<sup>こうりゅうかい</sup>ような<sup>こ</sup>交流会<sup>かい</sup>に来<sup>こ</sup>させて<sup>さ</sup>いただ<sup>い</sup>いて、



<sup>めい</sup> <sup>かたがた</sup> <sup>はつげん</sup> <sup>き</sup> <sup>みな</sup> <sup>じぶん</sup> <sup>ことば</sup> <sup>じぶん</sup> <sup>きもち</sup> <sup>どうどう</sup>  
5名<sup>めい</sup>の方<sup>かた</sup>々の<sup>がた</sup>発言<sup>はつげん</sup>を<sup>き</sup>聞いて、<sup>みな</sup>皆<sup>みな</sup>さん<sup>じぶん</sup>自<sup>じぶん</sup>分<sup>きもち</sup>の<sup>どうどう</sup>言<sup>こと</sup>葉<sup>ば</sup>で、<sup>じぶん</sup>自<sup>きもち</sup>分<sup>どうどう</sup>の<sup>どうどう</sup>気<sup>どう</sup>持<sup>どう</sup>ち<sup>どう</sup>を<sup>どう</sup>堂<sup>どう</sup>々<sup>どう</sup>と、<sup>この</sup>この<sup>たく</sup>たく<sup>さん</sup>さん  
<sup>ひと</sup> <sup>まえ</sup> <sup>わたし</sup> <sup>かんどう</sup> <sup>な</sup>  
の<sup>ひと</sup>人<sup>まえ</sup>の前<sup>わたし</sup>で<sup>かんどう</sup>しゃべ<sup>な</sup>られて<sup>な</sup>いる<sup>な</sup>とい<sup>な</sup>う<sup>な</sup>こ<sup>な</sup>と<sup>な</sup>に、<sup>わたし</sup>私<sup>かんどう</sup>は<sup>な</sup>と<sup>な</sup>と<sup>な</sup>も<sup>な</sup>感<sup>な</sup>動<sup>な</sup>し<sup>な</sup>て<sup>な</sup>お<sup>な</sup>り<sup>な</sup>ま<sup>な</sup>す。慣<sup>な</sup>れて<sup>な</sup>い<sup>な</sup>け<sup>な</sup>ば  
<sup>で</sup> <sup>き</sup> <sup>やさ</sup> <sup>おも</sup> <sup>みな</sup>  
出<sup>で</sup>来<sup>き</sup>る<sup>やさ</sup>こ<sup>おも</sup>と<sup>みな</sup>も<sup>みな</sup>し<sup>みな</sup>れ<sup>みな</sup>ま<sup>みな</sup>せ<sup>みな</sup>ん<sup>みな</sup>が、<sup>おも</sup>そ<sup>おも</sup>れ<sup>おも</sup>は<sup>おも</sup>そ<sup>おも</sup>ん<sup>おも</sup>な<sup>おも</sup>易<sup>おも</sup>しい<sup>おも</sup>こ<sup>おも</sup>と<sup>おも</sup>で<sup>おも</sup>は<sup>おも</sup>な<sup>おも</sup>い<sup>おも</sup>と<sup>おも</sup>思<sup>おも</sup>い<sup>おも</sup>ま<sup>おも</sup>す。で<sup>おも</sup>も<sup>おも</sup>皆<sup>おも</sup>さ<sup>おも</sup>ん  
<sup>じぶん</sup> <sup>ことば</sup> <sup>えんゆう</sup>  
自<sup>じぶん</sup>分<sup>ことば</sup>の<sup>えんゆう</sup>言<sup>えんゆう</sup>葉<sup>えんゆう</sup>で<sup>えんゆう</sup>しゃべ<sup>えんゆう</sup>っ<sup>えんゆう</sup>て<sup>えんゆう</sup>い<sup>えんゆう</sup>ら<sup>えんゆう</sup>っ<sup>えんゆう</sup>し<sup>えんゆう</sup>ゃ<sup>えんゆう</sup>る<sup>えんゆう</sup>とい<sup>えんゆう</sup>う<sup>えんゆう</sup>こ<sup>えんゆう</sup>と<sup>えんゆう</sup>が、<sup>えんゆう</sup>ど<sup>えんゆう</sup>れ<sup>えんゆう</sup>だ<sup>えんゆう</sup>け<sup>えんゆう</sup>す<sup>えんゆう</sup>ご<sup>えんゆう</sup>い<sup>えんゆう</sup>こ<sup>えんゆう</sup>と<sup>えんゆう</sup>か<sup>えんゆう</sup>を、<sup>えんゆう</sup>こ<sup>えんゆう</sup>の<sup>えんゆう</sup>遠<sup>えんゆう</sup>友<sup>えんゆう</sup>  
<sup>じゅく</sup> <sup>かんけい</sup> <sup>みな</sup> <sup>わ</sup> <sup>おも</sup> <sup>すば</sup> <sup>おも</sup>  
塾<sup>じゅく</sup>の<sup>かんけい</sup>関<sup>みな</sup>係<sup>わ</sup>の<sup>おも</sup>皆<sup>すば</sup>さ<sup>おも</sup>ん<sup>おも</sup>なら<sup>おも</sup>分<sup>おも</sup>か<sup>おも</sup>る<sup>おも</sup>と<sup>おも</sup>思<sup>おも</sup>い<sup>おも</sup>ま<sup>おも</sup>す<sup>おも</sup>が、<sup>おも</sup>と<sup>おも</sup>と<sup>おも</sup>も<sup>おも</sup>素<sup>おも</sup>晴<sup>おも</sup>ら<sup>おも</sup>し<sup>おも</sup>か<sup>おも</sup>つ<sup>おも</sup>た<sup>おも</sup>と<sup>おも</sup>思<sup>おも</sup>い<sup>おも</sup>ま<sup>おも</sup>す。

<sup>わたし</sup> <sup>だい</sup> <sup>いっ</sup> <sup>かい</sup> <sup>め</sup> <sup>こうりゅうかい</sup> <sup>さん</sup> <sup>か</sup> <sup>ひら</sup> <sup>かか</sup>  
私<sup>わたし</sup>、<sup>だい</sup>第<sup>いっ</sup>一<sup>かい</sup>回<sup>め</sup>目<sup>め</sup>の<sup>こうりゅうかい</sup>交<sup>さん</sup>流<sup>か</sup>会<sup>ひら</sup>には<sup>かか</sup>参<sup>かか</sup>加<sup>かか</sup>し<sup>かか</sup>て<sup>かか</sup>い<sup>かか</sup>な<sup>かか</sup>い<sup>かか</sup>ん<sup>かか</sup>で<sup>かか</sup>す<sup>かか</sup>け<sup>かか</sup>れ<sup>かか</sup>ど、<sup>かか</sup>こ<sup>かか</sup>の<sup>かか</sup>会<sup>かか</sup>を<sup>かか</sup>開<sup>かか</sup>い<sup>かか</sup>て<sup>かか</sup>く<sup>かか</sup>れ<sup>かか</sup>た、<sup>かか</sup>関<sup>かか</sup>わ  
<sup>かたがた</sup> <sup>しえん</sup> <sup>くだ</sup> <sup>かたがた</sup> <sup>じゅこうせい</sup> <sup>みな</sup> <sup>ねん</sup>  
つ<sup>かたがた</sup>て<sup>しえん</sup>く<sup>くだ</sup>れ<sup>かたがた</sup>た<sup>じゅこうせい</sup>ス<sup>みな</sup>タ<sup>ねん</sup>フ<sup>ねん</sup>フ<sup>ねん</sup>の方<sup>ねん</sup>々<sup>ねん</sup>、<sup>ねん</sup>支<sup>ねん</sup>援<sup>ねん</sup>し<sup>ねん</sup>て<sup>ねん</sup>下<sup>ねん</sup>さ<sup>ねん</sup>る<sup>ねん</sup>方<sup>ねん</sup>々<sup>ねん</sup>、<sup>ねん</sup>受<sup>ねん</sup>講<sup>ねん</sup>生<sup>ねん</sup>の<sup>ねん</sup>皆<sup>ねん</sup>さん<sup>ねん</sup>、<sup>ねん</sup>20<sup>ねん</sup>年<sup>ねん</sup>た<sup>ねん</sup>つ<sup>ねん</sup>て、<sup>ねん</sup>こ<sup>ねん</sup>ん<sup>ねん</sup>な  
<sup>ぜんこく</sup> <sup>ぜんどう</sup> <sup>ひろ</sup> <sup>おも</sup> <sup>ほんとう</sup> <sup>わたし</sup> <sup>なに</sup>  
に<sup>ぜんこく</sup>全<sup>ぜんどう</sup>国<sup>ひろ</sup>に、<sup>おも</sup>全<sup>ほんとう</sup>道<sup>わたし</sup>に<sup>なに</sup>広<sup>なに</sup>ま<sup>なに</sup>る<sup>なに</sup>だ<sup>なに</sup>な<sup>なに</sup>ん<sup>なに</sup>て<sup>なに</sup>思<sup>なに</sup>っ<sup>なに</sup>て<sup>なに</sup>た<sup>なに</sup>で<sup>なに</sup>し<sup>なに</sup>ょう<sup>なに</sup>か。本<sup>ほんとう</sup>当<sup>わたし</sup>に<sup>なに</sup>私<sup>なに</sup>は<sup>なに</sup>何<sup>なに</sup>も<sup>なに</sup>し<sup>なに</sup>て<sup>なに</sup>ま<sup>なに</sup>せ<sup>なに</sup>ん<sup>なに</sup>け<sup>なに</sup>れ<sup>なに</sup>ど、  
<sup>じゅこうせい</sup> <sup>みな</sup> <sup>ちい</sup> <sup>ちから</sup> <sup>いっしょ</sup> <sup>あつ</sup> <sup>おも</sup>  
ス<sup>じゅこうせい</sup>タ<sup>みな</sup>フ<sup>ちい</sup>や<sup>ちから</sup>受<sup>いっしょ</sup>講<sup>あつ</sup>生<sup>おも</sup>の<sup>おも</sup>皆<sup>おも</sup>さ<sup>おも</sup>ま、<sup>おも</sup>小<sup>おも</sup>さ<sup>おも</sup>な<sup>おも</sup>力<sup>おも</sup>を<sup>おも</sup>一<sup>おも</sup>緒<sup>おも</sup>に<sup>おも</sup>集<sup>おも</sup>め<sup>おも</sup>て<sup>おも</sup>こ<sup>おも</sup>こ<sup>おも</sup>ま<sup>おも</sup>で<sup>おも</sup>な<sup>おも</sup>つ<sup>おも</sup>た<sup>おも</sup>ん<sup>おも</sup>だ<sup>おも</sup>と<sup>おも</sup>思<sup>おも</sup>い<sup>おも</sup>ま<sup>おも</sup>す。そ  
<sup>かんが</sup> <sup>ひと</sup> <sup>ちから</sup> <sup>ひと</sup> <sup>おも</sup> <sup>おも</sup>  
の<sup>かんが</sup>こ<sup>ひと</sup>と<sup>ちから</sup>を<sup>ひと</sup>さ<sup>おも</sup>き<sup>おも</sup>考<sup>おも</sup>え<sup>おも</sup>て、<sup>おも</sup>こ<sup>おも</sup>れ<sup>おも</sup>は<sup>おも</sup>す<sup>おも</sup>ご<sup>おも</sup>い、<sup>おも</sup>人<sup>おも</sup>の<sup>おも</sup>力<sup>おも</sup>、<sup>おも</sup>人<sup>おも</sup>の<sup>おも</sup>思<sup>おも</sup>い<sup>おも</sup>が<sup>おも</sup>こ<sup>おも</sup>う<sup>おも</sup>さ<sup>おも</sup>せ<sup>おも</sup>る<sup>おも</sup>ん<sup>おも</sup>だ<sup>おも</sup>な<sup>おも</sup>と<sup>おも</sup>思<sup>おも</sup>っ<sup>おも</sup>て  
<sup>かんどう</sup> <sup>みな</sup> <sup>じぶん</sup> <sup>こころ</sup> <sup>からだ</sup> <sup>げんき</sup> <sup>ぼしよ</sup> <sup>あ</sup>  
感<sup>かんどう</sup>動<sup>みな</sup>し<sup>じぶん</sup>て<sup>こころ</sup>お<sup>からだ</sup>り<sup>げんき</sup>ま<sup>ぼしよ</sup>した<sup>あ</sup>い<sup>あ</sup>ま<sup>あ</sup>した<sup>あ</sup>い<sup>あ</sup>っ<sup>あ</sup>て<sup>あ</sup>い<sup>あ</sup>う<sup>あ</sup>思<sup>あ</sup>い<sup>あ</sup>は、<sup>あ</sup>や<sup>あ</sup>つ<sup>あ</sup>と<sup>あ</sup>こ<sup>あ</sup>う<sup>あ</sup>い<sup>あ</sup>う<sup>あ</sup>場<sup>あ</sup>所<sup>あ</sup>を<sup>あ</sup>得<sup>あ</sup>た<sup>あ</sup>ん<sup>あ</sup>で<sup>あ</sup>す<sup>あ</sup>か<sup>あ</sup>ら、<sup>あ</sup>み<sup>あ</sup>ん<sup>あ</sup>な<sup>あ</sup>幸<sup>あ</sup>せ<sup>あ</sup>に<sup>あ</sup>な<sup>あ</sup>り  
<sup>べんきょう</sup> <sup>おも</sup> <sup>ぼしよ</sup> <sup>え</sup> <sup>しあわ</sup>  
勉<sup>べんきょう</sup>強<sup>おも</sup>し<sup>ぼしよ</sup>たい<sup>え</sup>っ<sup>しあわ</sup>て<sup>しあわ</sup>い<sup>しあわ</sup>う<sup>しあわ</sup>思<sup>しあわ</sup>い<sup>しあわ</sup>は、<sup>しあわ</sup>や<sup>しあわ</sup>つ<sup>しあわ</sup>と<sup>しあわ</sup>こ<sup>しあわ</sup>う<sup>しあわ</sup>い<sup>しあわ</sup>う<sup>しあわ</sup>場<sup>しあわ</sup>所<sup>しあわ</sup>を<sup>しあわ</sup>得<sup>しあわ</sup>た<sup>しあわ</sup>ん<sup>しあわ</sup>で<sup>しあわ</sup>す<sup>しあわ</sup>か<sup>しあわ</sup>ら、<sup>しあわ</sup>み<sup>しあわ</sup>ん<sup>しあわ</sup>な<sup>しあわ</sup>幸<sup>しあわ</sup>せ<sup>しあわ</sup>に<sup>しあわ</sup>な<sup>しあわ</sup>り  
ま<sup>しあわ</sup>し<sup>しあわ</sup>ょう。

<sup>わたし</sup> <sup>かね</sup> <sup>しあわ</sup> <sup>おも</sup> <sup>しあわ</sup> <sup>か</sup>  
私<sup>わたし</sup>お<sup>かね</sup>金<sup>しあわ</sup>は<sup>おも</sup>な<sup>しあわ</sup>い<sup>か</sup>け<sup>か</sup>れ<sup>か</sup>ど、<sup>か</sup>幸<sup>か</sup>せ<sup>か</sup>だ<sup>か</sup>な<sup>か</sup>と<sup>か</sup>思<sup>か</sup>っ<sup>か</sup>て、<sup>か</sup>そ<sup>か</sup>の<sup>か</sup>幸<sup>か</sup>せ<sup>か</sup>を<sup>か</sup>ガ<sup>か</sup>ム<sup>か</sup>み<sup>か</sup>た<sup>か</sup>い<sup>か</sup>に<sup>か</sup>き<sup>か</sup>ゅ<sup>か</sup>つ<sup>か</sup>つ<sup>か</sup>と<sup>か</sup>た<sup>か</sup>ま<sup>か</sup>に<sup>か</sup>嚙

みしめていたいなと思ひました。長い話ですみませんでした。

**発言者** 私は今年になってやっと札幌遠友塾に入学したピカピカの1年生高井康子です。普通通りに学校は出たという卒業証書はあるんですけど、ここに入ってみて、自分ではちゃんと習ってきたつもりでも、これも忘れてた、これも……。十のうち九つ忘れてますもんね。恥ずかしいんですけど、皆さんのおかげで楽しいし、学んで良かったと思います。こんな北海道中から集まるような場に来れる立場じゃないなと思いつつ、今日はこそっと来たつもり。なのにこうやってしゃべったら絶対駄目ですよ。でもずっと続けていきたいし、ずっといたいんですよ。皆さん、健康でないと来れませんので、毎日みんな気をつけましょう。もう少し勉強したら、今度はしゃべります。

**発言者** 私は遠友塾15期生の横井です。今定時制高校には行っているんですけど、一番劣等生です。夜間中学に入ったのは、私も戦争の犠牲者とは言いませんけど、開拓

農家の一員だったので、学校に行くことはできませんで

した。小学校3年生で学校に行くのを止めて、子守と

か、あとは農家の仕事をしていました。兄が予科練の

兵隊に取られたので、家のあとつぐ人がいなくて、私が

家長になったような形でいたんですけど、終戦になりまして…。戦争中でありながら

戦争は知らないんです。ただ開拓農家にいて苦労しただけに、学校に行けなかった。それ

と同時に兄が結婚しましたら、だんだん私も年取ってくると、邪魔になるもんですから、

一応札幌に出てきました。そして縁あってある会社に勤めまして、そこでは上司の方がす



よく良かったので、<sup>けいりか つと</sup> 経<sup>ていねんさいご</sup> 理<sup>けいりか</sup> 課<sup>ねん</sup> に勤<sup>め</sup> まして、定<sup>ねん</sup> 年<sup>さいご</sup> 最<sup>さいご</sup> 後<sup>ねん</sup> ま<sup>で</sup> 経<sup>けいりか</sup> 理<sup>ねん</sup> 課<sup>ねん</sup> に 20 年<sup>お</sup> り<sup>ま</sup> した。

そして勉<sup>べんきょう</sup> 強<sup>せけん</sup> して<sup>わ</sup> ない<sup>ていねん</sup> も<sup>とき</sup> ん<sup>で</sup> す<sup>に</sup> か<sup>ら</sup>、世<sup>よ</sup> 間<sup>の</sup> こ<sup>と</sup> が<sup>わ</sup> 分<sup>ら</sup> 不<sup>な</sup> い<sup>の</sup> で、定<sup>ねん</sup> 年<sup>さいご</sup> に<sup>な</sup> った<sup>に</sup> 時<sup>とき</sup> に<sup>な</sup> る<sup>に</sup> 勉<sup>べんきょう</sup> 強<sup>せけん</sup> したい<sup>な</sup> と<sup>おも</sup> 思<sup>い</sup> っ<sup>ま</sup> した<sup>が</sup>、小<sup>しょうがっこう</sup> 学<sup>ねんそつぎょう</sup> 校<sup>は</sup> 3 年<sup>がっこう</sup> 卒<sup>う</sup> 業<sup>う</sup> では、ど<sup>こ</sup> の<sup>が</sup> 学<sup>が</sup> 校<sup>が</sup> にも<sup>も</sup> 受<sup>う</sup> けて<sup>ら</sup> っ<sup>ら</sup> う<sup>う</sup> こ<sup>と</sup> 出<sup>で</sup> 来<sup>き</sup> ない<sup>い</sup> ん<sup>ん</sup> だ<sup>す</sup> ね。年<sup>とし</sup> も<sup>と</sup> っ<sup>て</sup> ま<sup>す</sup> し、そ<sup>う</sup> した<sup>に</sup> 時<sup>とき</sup> に<sup>こ</sup> の<sup>えんゆうじゅく</sup> 遠<sup>しんぶん</sup> 友<sup>し</sup> 塾<sup>し</sup> と<sup>い</sup> う<sup>の</sup> を<sup>し</sup> 新<sup>しんぶん</sup> 聞<sup>し</sup> で<sup>知</sup> り<sup>ま</sup> して、お<sup>ねが</sup> 願<sup>い</sup> い<sup>し</sup> ま<sup>し</sup> て<sup>に</sup> 入<sup>にゅうがく</sup> 学<sup>がく</sup> さ<sup>せ</sup> て<sup>い</sup> た<sup>だ</sup> き<sup>ま</sup> せ<sup>て</sup>、3 年<sup>ねんかんべんきょう</sup> 間<sup>かん</sup> 勉<sup>べんきょう</sup> 強<sup>せけん</sup> した<sup>ん</sup> だ<sup>す</sup>。

その時<sup>とき</sup> 入<sup>い</sup> っ<sup>て</sup> 一<sup>いち</sup> 番<sup>ばん</sup> 思<sup>おも</sup> っ<sup>た</sup> こ<sup>と</sup> は、私<sup>わたし</sup> は<sup>けいりか</sup> 経<sup>ねん</sup> 理<sup>ねん</sup> 課<sup>ねん</sup> に 20 年<sup>ねん</sup> も<sup>も</sup> いた<sup>の</sup> に、何<sup>なに</sup> を<sup>おぼ</sup> 覚<sup>おぼ</sup> えて<sup>た</sup> ん<sup>で</sup> し<sup>よ</sup> う、足<sup>た</sup> し<sup>ざん</sup> 算<sup>ひ</sup> と<sup>ざん</sup> 引<sup>わり</sup> き<sup>ざん</sup> 算<sup>く</sup>、割<sup>く</sup> り<sup>く</sup> 算<sup>く</sup> と<sup>く</sup> 九<sup>し</sup> 九<sup>し</sup> だ<sup>け</sup> け<sup>し</sup> か<sup>し</sup> 知<sup>ら</sup> ない<sup>い</sup> ん<sup>ん</sup> だ<sup>す</sup>。で<sup>も</sup> 会<sup>かい</sup> 社<sup>しゃ</sup> の<sup>しよくぼ</sup> 職<sup>けいりか</sup> 場<sup>か</sup> で<sup>経</sup> 理<sup>り</sup> 課<sup>か</sup> に<sup>お</sup> り<sup>ま</sup> して、一<sup>いち</sup> 応<sup>おう</sup> 足<sup>た</sup> し<sup>ざん</sup> 算<sup>ひ</sup> と<sup>ざん</sup> 引<sup>わり</sup> き<sup>ざん</sup> 算<sup>く</sup> を<sup>おぼ</sup> 覚<sup>おぼ</sup> えて<sup>い</sup> れ<sup>ば</sup>、<sup>けいりか</sup> 経<sup>つと</sup> 理<sup>つと</sup> 課<sup>つと</sup> で<sup>勤</sup> め<sup>ら</sup> れ<sup>る</sup> ん<sup>だ</sup> す<sup>よ</sup>。

そして、遠<sup>えんゆうじゅく</sup> 友<sup>い</sup> 塾<sup>い</sup> に<sup>入</sup> れ<sup>て</sup> いた<sup>だ</sup> き<sup>ま</sup> して、勉<sup>べんきょう</sup> 強<sup>せけん</sup> して<sup>い</sup> る<sup>に</sup> 時<sup>とき</sup> に、分<sup>ぶん</sup> 数<sup>すう</sup> も<sup>わ</sup> 分<sup>ら</sup> 不<sup>な</sup> い<sup>の</sup> で、そ<sup>の</sup> う<sup>ち</sup> に<sup>ほうていしき</sup> 方<sup>なん</sup> 程<sup>わ</sup> 式<sup>ねんかん</sup> だ<sup>と</sup> か、い<sup>ろ</sup> う<sup>ろ</sup> う<sup>あ</sup> っ<sup>て</sup> 何<sup>なん</sup> に<sup>も</sup> 分<sup>ら</sup> 不<sup>な</sup> い<sup>の</sup> で。3 年<sup>ねんかん</sup> 間<sup>かん</sup> で<sup>そつぎょう</sup> 卒<sup>と</sup> 業<sup>とき</sup> した<sup>に</sup>、高<sup>こう</sup> 校<sup>こう</sup> へ<sup>い</sup> 行<sup>い</sup> く<sup>と</sup> 自<sup>じ</sup> 分<sup>ぶん</sup> で<sup>かんが</sup> 考<sup>とき</sup> へ<sup>た</sup> 時<sup>に</sup> に<sup>な</sup> 何<sup>なに</sup> を<sup>い</sup> た<sup>か</sup> と、今<sup>いま</sup> 「ひ<sup>おも</sup> っ<sup>た</sup>」と<sup>だ</sup> 思<sup>おも</sup> い<sup>だ</sup> した<sup>ん</sup> だ<sup>す</sup> け<sup>れ</sup> ど、野<sup>の</sup> 口<sup>ぐち</sup> さん<sup>から</sup> 言<sup>い</sup> わ<sup>れ</sup> ま<sup>し</sup> た、<sup>がっこう</sup> 「学<sup>が</sup> 校<sup>が</sup> で<sup>つ</sup> プ<sup>は</sup> ラ<sup>な</sup> モ<sup>し</sup> デ<sup>ル</sup> を<sup>つ</sup> 作<sup>つ</sup> っ<sup>た</sup>」と<sup>い</sup> う<sup>話</sup> に、私<sup>わたし</sup> が<sup>1</sup> 年<sup>ねん</sup> の<sup>とき</sup> 時<sup>に</sup> に<sup>しゃかい</sup> 社<sup>かい</sup> 会<sup>かい</sup> 科<sup>か</sup> の<sup>勉</sup> 強<sup>きょう</sup> で、羊<sup>やま</sup> 蹄<sup>てい</sup> 山<sup>さん</sup> の<sup>お</sup> 山<sup>だ</sup> を<sup>えんゆうじゅく</sup> つ<sup>く</sup> っ<sup>た</sup> ん<sup>だ</sup> す、そ<sup>れ</sup> を<sup>な</sup> ち<sup>よ</sup> っ<sup>と</sup> 思<sup>おも</sup> い<sup>だ</sup> した<sup>ん</sup> だ<sup>す</sup>。遠<sup>えんゆうじゅく</sup> 友<sup>い</sup> 塾<sup>い</sup> で<sup>何</sup> が<sup>い</sup> ち<sup>ばん</sup> 残<sup>のこ</sup> っ<sup>て</sup> いる<sup>か</sup> と<sup>い</sup> う<sup>と</sup> 卒<sup>そつぎょう</sup> 業<sup>ぶんしゅう</sup> 文<sup>とき</sup> 集<sup>しよういざん</sup> の<sup>お</sup> 時<sup>だ</sup> に、羊<sup>やま</sup> 蹄<sup>てい</sup> 山<sup>さん</sup> の<sup>お</sup> こ<sup>と</sup> を<sup>わ</sup> 思<sup>おも</sup> い<sup>だ</sup> した<sup>ん</sup> だ<sup>す</sup> 私<sup>わたし</sup> が<sup>え</sup> 絵<sup>え</sup> を<sup>か</sup> 描<sup>か</sup> き<sup>ま</sup> した。そ<sup>し</sup> て<sup>か</sup> 描<sup>そつぎょう</sup> いた<sup>の</sup> が<sup>ぶんしゅう</sup> 卒<sup>ひょうし</sup> 業<sup>の</sup> 文<sup>の</sup> 集<sup>の</sup> 表<sup>な</sup> 紙<sup>み</sup> に<sup>で</sup> 載<sup>な</sup> せ<sup>て</sup> いた<sup>だ</sup> き<sup>ま</sup> して、涙<sup>なみだ</sup> が<sup>で</sup> 出<sup>う</sup> る<sup>ほ</sup> ど<sup>う</sup> 嬉<sup>うれ</sup> しく、<sup>こうこう</sup> こ<sup>う</sup> 校<sup>い</sup> 行<sup>き</sup> っ<sup>て</sup> も<sup>きぼう</sup> 希<sup>も</sup> 望<sup>の</sup> を<sup>の</sup> 持<sup>も</sup> っ<sup>て</sup> 登<sup>のぼ</sup> っ<sup>て</sup> い<sup>こう</sup>、と<sup>かんが</sup> 考<sup>かんが</sup> え<sup>ま</sup> した。

その時<sup>とき</sup> に<sup>だ</sup> テ<sup>ほっかいどうじゅう</sup> レ<sup>みな</sup> ビ<sup>み</sup> に<sup>ねん</sup> 出<sup>で</sup> っ<sup>て</sup> いた<sup>だ</sup> け<sup>た</sup> お<sup>か</sup> げ<sup>で</sup>、北<sup>ほっかいどう</sup> 海<sup>じゅう</sup> 道<sup>み</sup> 中<sup>み</sup>、皆<sup>みな</sup> さん<sup>み</sup> テ<sup>ねん</sup> レ<sup>み</sup> ビ<sup>み</sup> を<sup>み</sup> て<sup>も</sup> う<sup>40</sup> 年<sup>ねん</sup> も<sup>た</sup> 経<sup>た</sup> っ<sup>て</sup> いる<sup>の</sup> に<sup>い</sup> ろ<sup>ろ</sup> 々<sup>々</sup> な<sup>と</sup> 処<sup>ところ</sup> 方<sup>でんわ</sup> から<sup>ひ</sup> 電<sup>ほう</sup> 話<sup>そうきよく</sup> を<sup>と</sup> いた<sup>だ</sup> け<sup>た</sup> ん<sup>だ</sup> す。あ<sup>あ</sup> る<sup>あ</sup> 人<sup>ひと</sup> は<sup>ほう</sup> 放<sup>ほう</sup> 送<sup>そう</sup> 局<sup>きょく</sup> に<sup>あ</sup> 問<sup>と</sup> い<sup>あ</sup> わ<sup>わ</sup> せ<sup>て</sup> 探<sup>さが</sup> っ<sup>て</sup> くれ<sup>ま</sup> した。次<sup>つぎ</sup> の<sup>とし</sup> 年<sup>みな</sup> に<sup>さつぼろ</sup> 皆<sup>き</sup> さん<sup>あつ</sup> が<sup>い</sup> 札<sup>いわ</sup> 幌<sup>わ</sup> ま<sup>で</sup> 来<sup>き</sup> て<sup>集</sup> ま<sup>っ</sup> て<sup>く</sup> れ<sup>て</sup> お<sup>い</sup> 祝<sup>いわ</sup> い<sup>し</sup> て<sup>く</sup> れ<sup>た</sup> ん<sup>だ</sup> す。そ<sup>し</sup> て<sup>こうこう</sup> 高<sup>い</sup> 校<sup>い</sup> 行<sup>い</sup> っ<sup>て</sup> いる<sup>の</sup> と<sup>い</sup> っ<sup>ま</sup> した<sup>ら</sup>、皆<sup>みな</sup> さん<sup>ない</sup> 泣<sup>ない</sup> っ<sup>て</sup> 喜<sup>よろこ</sup> ん<sup>で</sup> くれ<sup>ま</sup> した。



だから私の人生は遠友塾があってもいいのです。今日皆さんの体験を聞きまして本当に嬉しく思いました。これからも皆さんも一所懸命勉強して下さい。希望がたくさんありますので。

**発言者** 皆さん、こんにちは。2年前に学生だったときに遠友塾のスタッフをしていました。今日は久しぶりに札幌に来たので、発表会に参加したんです。参加してみて、ずっとスタッフをしていた頃から遠友塾に来ると、私は英語の授業を担当していたんですけども、いろいろ大変なこともあり、きつかったんですけども、皆さんから学ぶこと大切さとか、あと生徒さんとの会話から、たくさんの感動やパワーをいただきました。遠友塾に2年間スタッフとして通っていたんですけども、それがすごく励みになりました。スタッフを一度経験して、今は北海道の高等学校で期限付きなんですけれども教員をしています。今学校で授業をしていると、これからはどうなるか分からないですけども、生徒たちが学ぶ意志がなかったり、学校に通う大切さとか、まだまだあまり伝わっていないので、そういうことを伝えていけるように頑張っていきたいなど、今日の生活体験発表を聞いて改めて実感しました。どうもありがとうございました。

## IV 閉会のあいさつ

### 1 今西 隆人さん（北海道に夜間中学をつくる会副代表）

皆さんこんにちは今西です。今日は函館遠友塾の代表と

いうことで話させてもらいます。2年4ヶ月位前までは

札幌遠友塾に8年間スタッフをやらせていただいていた

ました。ちょっと仕事の関係で札幌から離れまして、七飯町の

養護学校で今は単身赴任の生活を味わっているところです。ちょうど2年前、最初向こう

へ行った時は、夜間中学をやるつもりはなかったんですけども、ちょっと函館の話を

させて下さい。最初はやるつもりはなかったんですけども、職場と家との往復でなんか

物足りないなということで、それから函館からも札幌遠友塾に通っていた方もおられ

たので、函館にもそういった勉強したい方がいるんだろうなと思って、ちょうど2年前の

秋、北海道新聞の記者の方に電話して、取材に来ていただきました。

何人集まるか、スタッフも何人集まるか分からなかったんですけども、スタッフも集ま

らなければ自分だけでできるかなという、とても楽観主義なもので、やればなんとかなる

な、とそんな軽い気持ちでやったところ、一年目に50名の方から問い合わせがありました。

そのうち3名の方は健康に不安があるということで辞退されましたが、その3名の方は男

の方なんですよね。逆に女性の方は、一週間に一回通えるように健康に留意して頑張る

と言う。やっぱり女の人は長生きするなと思いました。



にねんめ はい ねんせい しんにゅうせい めい ねんせい めい ごうけい めい めい  
二年目に入りまして、1年生が新入生15名、2年生が45名、合計60名とスタッフが25名

ほほどですね。スタッフは、半数が教員の現職とかOBで、あとは学生さん、会社員、主婦

かた さまざまあつ はこだて じまん おも きゅうしょく こうか  
の方と様々集まってやっています。函館の自慢をしようと思って、給食と校歌のことを

じまん おも はこだてえんゆうじゅく かいじょう はこだてしそごうふくし ところ  
自慢しようと思ったんです。函館遠友塾は、会場が函館市総合福祉センターという所で

やっているんですけれども、そこに調理実習室ということで調理室があります。そういう

こと、まいしゅう たいへん いま つきいっかい ちょうりたんとう せんぞく かた  
ことで、毎週は大変なものですから、今のところ月一回、調理担当の専属の方もいまして、

メニューとか考えてもらっています。

かね じっぴ ねんかん せんえん いかい えん  
お金は実費で年間2千円ですね。一回あたり200円ということで。そこはボランティア

だんたい とうろく かいじょう むりょう つか めん さっぽろ ぼあい  
団体で登録しますと会場は無料で使えるんですよ。そういった面では、札幌の場合ですと

かいじょうひ けっこう はこだて ぼあい かいじょうひ じゅくせい かた あつ  
会場費が結構かかる。函館の場合は会場費ゼロでやっています。ですから塾生の方から集

めるお金も最初2千円でやってみたんですけれども、若干足りないなということで、塾生の

かた ねんかん せんえん じまん  
方からいただくのは年間5千円ですから、このへんはちょっと自慢というか、うまくでき

たなあとと思っています。校歌についても函館教育大学の音楽科の先生で、もう退官された

んですが、その方と今数学科で小学校教員のOBの前田先生が二人で作詞作曲編曲な

どもやって下さいました。まだ私も全部覚えてないんですけれども、入学式とか卒業式の

とき うた  
時には歌っています。

いちかいめ こうりゅうかい こんかいだ きょう  
一回目の交流会にはこれなかったんですけれども、今回出させていただいて、また今日

はなし はこだて もち かえ おも  
の話をも函館に持ち帰りたいと思っています。

がつ にち じゅぎょう じまん ねん にかいがいぶこうし  
また、8月18日から授業をやるんですが、ここでまた自慢なんですが、年に二回外部講師

かた よ なに はなし きかい にち はこだて さっぽろ  
の方を呼んで、何か話をしてもらうという機会もつくったんです。18日には、函館も札幌

えんゆうじゅく おな わりがた だい かた ふ こ さぎ ぼうしほう けいさつしょ  
遠友塾と同じように9割方が70代の方なものですから、振り込め詐欺の防止法を警察署  
い じっさい はな にかいめ あき ちょうじゅ けんこうしょく ろうじんむ  
に行つて、実際に話していただいて、二回目には秋に長寿のための健康食、老人向きの  
こうえんかい よてい わたし さっぽろ ねんかん さっぽろ よ と  
講演会を予定しています。私は札幌に8年間いたものですから、札幌の良いところ取りしな  
がらやっていきたいです。これからまた機会ありましたらお会いして、いろいろな話を聞か  
せて下さい。今日はありがとうございました。

## 2 菅 裕子さん (北海道に夜間中学をつくる会副代表)

みな きょう つか さま わたし くしろ じしゅやかんちゅうがく  
皆さん今日はお疲れ様でした。私は釧路自主夜間中学  
かん もう  
の菅と申します。

きょう にん かた たいけんはつびょう き じぶん ことば  
今日5人の方の体験発表を聞きまして、自分の言葉で  
じぶん おも ひと つた ほんとう すば  
自分の思いをたくさんの人に伝える、本当に素晴らしいな



おも き やかんちゅうがく かか ひとり ほんとう うれ  
と思つて聞いていました。やはり夜間中学に関わる一人として、このことは本当に嬉しい  
ことで、とても勉強になりましたし、励みにもなりました。

これからも学習者さんとお手伝いするスタッフの方たちも、協力して仲良く、こうい  
うことをずっと続けていけたらいいなあという風に思いながら聞いておりました。

きょう くしろ かた はな じつ がつ そうかい とき わたし くしろ  
今日も釧路の方がお話してくれましたけれど、実は5月の総会の時に私は釧路から  
やかん き さっぽろ あさはや つ だいまる みせ かいてん まえ  
夜間バスで来て札幌に朝早く着いたんですね。大丸のお店が開店する前、ちょっといす  
にかけて休んでいたら、彼女が隣にいました。デブの私はどうしてあなたそんなに痩せ  
ているのですかって聞いたんです。で、いろいろな話をしている時に、私が5年前に手を折  
かなぐ はい てんき わる いた はなし  
って、金具が入っているんですが、「天気が悪かったりすると痛むんですね」とその話を

しましたら、「いいものがあるから」と、今日<sup>きょうとど</sup>届けてくれたんです。そういうつながりって  
ほんとう <sup>たいせつ</sup> <sup>おも</sup> <sup>かのじょ</sup> <sup>き</sup> <sup>はじ</sup> <sup>わたし</sup> <sup>かか</sup>  
本当に大切なんだなと思って、彼女はここに来て初めて、私がここに関わっているという  
ことを知<sup>し</sup>って、ご縁<sup>えん</sup>だなと。

<sup>くしろ</sup> <sup>やかんちゅうがく</sup> <sup>ご</sup> <sup>ご</sup> <sup>じ</sup> <sup>ぶん</sup> <sup>だいいちぶ</sup> <sup>はじ</sup> <sup>じ</sup> <sup>だいにぶ</sup> <sup>はじ</sup>  
釧路の夜間中学は、午後5時15分から第一部が始まりまして、7時から第二部が始まる  
んです。そうすると大体今頃<sup>だいたいいまごろ</sup>ですと明るいので「こんにちは」と言う人<sup>い</sup>と、「こんばんは」  
と言う人<sup>い</sup>が入り交<sup>い</sup>じっているんですね。これも夜間中学<sup>やかんちゅうがく</sup>ということでもいいよね<sup>おも</sup>と思っ  
ています。釧路の夜間中学<sup>くしろ</sup> <sup>やかんちゅうがく</sup>は月一回<sup>つきいっかい</sup>、第4火曜日<sup>だい</sup> <sup>かようび</sup>は合同学習<sup>ごうどうがくしゅう</sup>の日<sup>ひ</sup>になっていまして、算数<sup>さんすう</sup>、  
<sup>すうがく</sup> <sup>えいご</sup> <sup>こくご</sup> <sup>がくしゅう</sup> <sup>ひと</sup> <sup>みないっしょ</sup> <sup>おな</sup> <sup>がくしゅう</sup> <sup>まえ</sup> <sup>かようび</sup>  
数学、英語、国語を学習する人も皆一緒<sup>みないっしょ</sup>になって、同じことを学習<sup>がくしゅう</sup>します。この前の火曜日<sup>まえ</sup> <sup>かようび</sup>  
は詩<sup>し</sup>の学習<sup>がくしゅう</sup>をしました。皆さん<sup>みな</sup>ご存<sup>ぞん</sup>じの、「ぞうざんぞうざん」の歌<sup>うた</sup>を作<sup>つく</sup>った、まどみち  
おさんとか、三好達治<sup>みやしたつじ</sup>さんの詩<sup>し</sup>を取り上<sup>と</sup>げて学習<sup>あ</sup>しました。とても評判<sup>ひょうばん</sup>がよかったです。

<sup>とうきょう</sup> <sup>じっさい</sup> <sup>やかんちゅうがく</sup> <sup>かか</sup> <sup>せんせい</sup> <sup>ひと</sup>  
これは東京で、実際に夜間中学<sup>とうきょう</sup> <sup>じっさい</sup>に関わ<sup>やかんちゅうがく</sup>っていた先生<sup>かか</sup>がいらっしゃるのですが、その人<sup>せんせい</sup> <sup>ひと</sup>が  
<sup>しゅ</sup> <sup>がくしゅう</sup> <sup>すす</sup> <sup>し</sup> <sup>よ</sup> <sup>し</sup> <sup>ぶぶん</sup> <sup>かつこ</sup> <sup>なん</sup>  
主<sup>しゅ</sup>になって学習<sup>がくしゅう</sup>を進<sup>すす</sup>めたんです。詩<sup>し</sup>を読<sup>よ</sup>んだり、詩<sup>し</sup>のある部分<sup>ぶぶん</sup>を括弧<sup>かつこ</sup>にして、ここに何<sup>なん</sup>  
ていう言葉<sup>ことば</sup>が入<sup>はい</sup>りますかなんていう学習<sup>がくしゅう</sup>をしたりして、とても楽し<sup>たの</sup>しかったです。

それからもう一つ<sup>ひと</sup>だけ。釧路夜間中学<sup>くしろ</sup> <sup>やかんちゅうがく</sup>「くるかい」は3月<sup>がつ</sup>に文集<sup>ぶんしゅう</sup>を作<sup>つく</sup>ったんですが、  
<sup>ぶんしゅう</sup> <sup>なか</sup> <sup>くしろしんぶん</sup> <sup>まいしゅうかようび</sup> <sup>わたし</sup> <sup>か</sup> <sup>こ</sup> <sup>げんざい</sup> <sup>みらい</sup> <sup>はつびよう</sup>  
その文集<sup>ぶんしゅう</sup>の中から釧路新聞<sup>くしろしんぶん</sup>に、毎週<sup>まいしゅう</sup>火曜日<sup>かようび</sup>「私の過去<sup>わたし</sup>・現在<sup>か</sup>・未来<sup>こ</sup>」ということで、発表<sup>はつびよう</sup>  
しても良い<sup>よ</sup>という人<sup>ひと</sup>だけ、記者<sup>きしゃ</sup>さんが直接<sup>ちよくせつ</sup>お話し<sup>はなし</sup>して、新聞<sup>しんぶん</sup>に載<sup>のせ</sup>せました。この間<sup>あいだ</sup>の火曜日<sup>かようび</sup>  
は10回目<sup>かいめ</sup>でした。夏<sup>なつ</sup>にはバーベキューの会<sup>かい</sup>があつたりとか、12月<sup>がつ</sup>にはクリスマス会<sup>かい</sup>とかも  
するんですけれども。石川<sup>いしかわ</sup>さんが「くるかい」が楽しい<sup>たの</sup>いと言ってくれたのでほっとしまし  
<sup>みな</sup> <sup>みな</sup> <sup>がくしゅうしや</sup> <sup>きょうりよく</sup> <sup>あ</sup> <sup>がんば</sup>  
た。皆さん<sup>みな</sup>これからもスタッフの皆さん<sup>みな</sup>と学習者<sup>がくしゅうしや</sup>と協力<sup>きょうりよく</sup>し合<sup>あ</sup>って頑<sup>がんば</sup>張<sup>ば</sup>っていきませんか。  
<sup>ねが</sup>  
よろしくお願<sup>ねが</sup>いします。